

令和6年度八幡公民館主催事業 5月5日より先着受付

第19シリーズ

30人募集

八幡史学館

回	月日	内容	講師
1	6月11日(火)	昔懐かし子どもの遊び	時田光夫 氏
2	7月9日(火)	飯香岡八幡宮と八幡	平澤牧人 氏
③	8月6日(火)	太平洋戦争(第2次世界大戦)と八幡	山岸弘明 氏
4	9月10日(火)	八幡の地理学	小関勇次 氏
5	10月8日(火)	八幡近郊における漢文学の展開	辻井義輝 氏

5回講座です。すべての会に参加できる方が対象です。

時間:午前9時30分から11時30分

場所:八幡公民館 視聴覚室

参加費:無料

3回目講師
山岸弘明氏



公民館天井絵

※キャンセルや欠席の場合は、必ず公民館にご連絡願います

山口 達画伯「四季草花図」

八幡公民館0436(41)1984

令和6年度 八幡公民館 主催事業

『八幡史学館』 第1回 資料

昔懐かし子どもの遊び

令和6年 6月11日(火)

午前9時30分から11時30分



講師

八幡公民館運営員会副会長

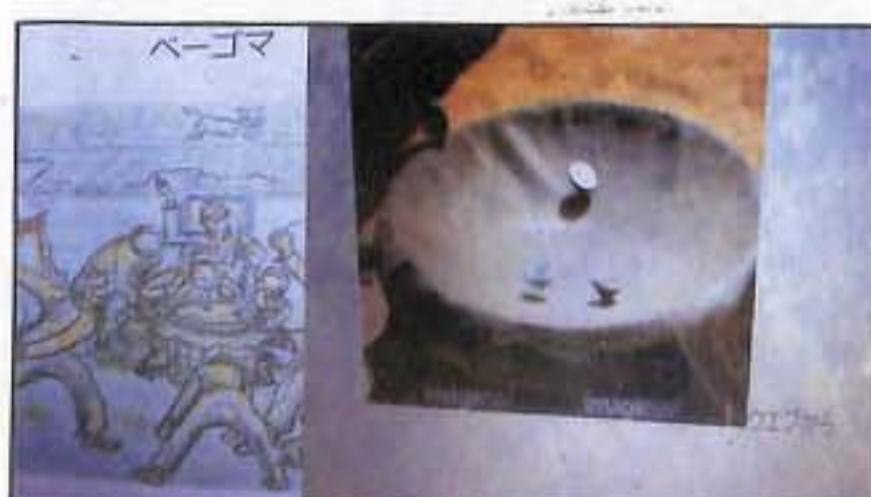
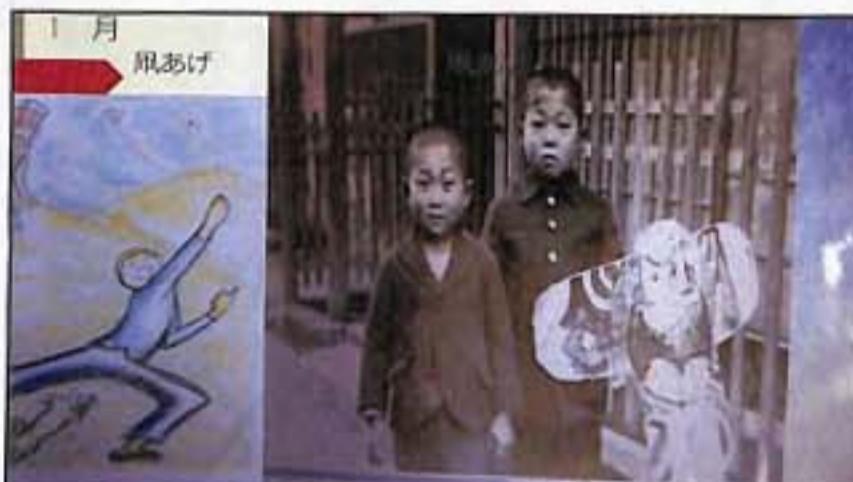
時田 光夫氏

八幡公民館 主催授業 「史学館」

昔懐かし子どもの遊び

八幡公民館運営協議会 副会長 時田光夫

昭和20年代から30年代の子供たちは外でよく遊んだ。塾やゲーム機のない時代、自然が遊び場であり友達だった。そんな時代の懐かしい「昔の遊び」は1月から12月までの1年間、その月々に相応しい遊びを選択して掲載していますが、その遊びが必ずしも、その月限定の遊びという意味ではありません。遊びによっては、ある時期、ある季節限定のものもありますが、年間を通して親しまれた遊びも多々ありますので、この点ご承知ください。



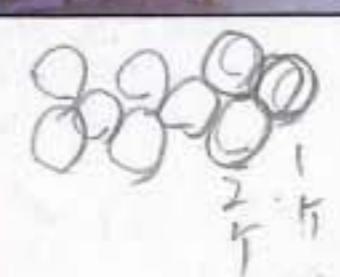
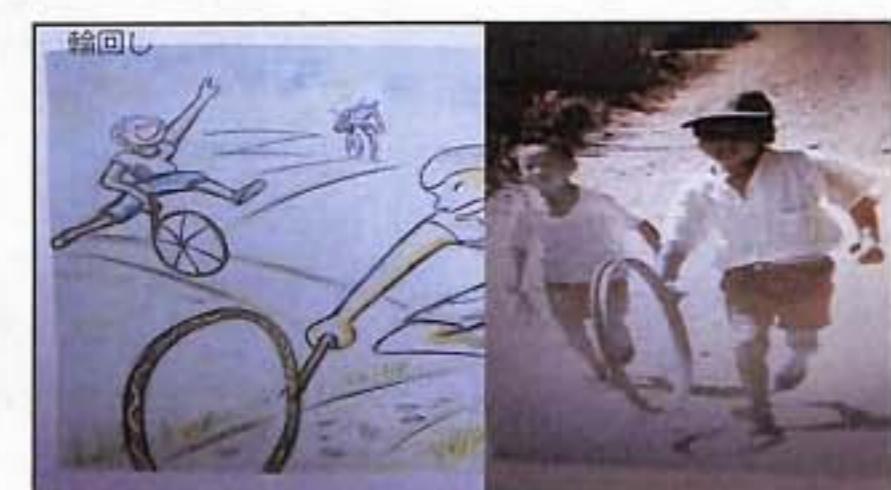
半筒の球
男の子の球
女(生)の球



八けり 女の子たちの遊び



木馬遊びの写真 貞竹
長靴



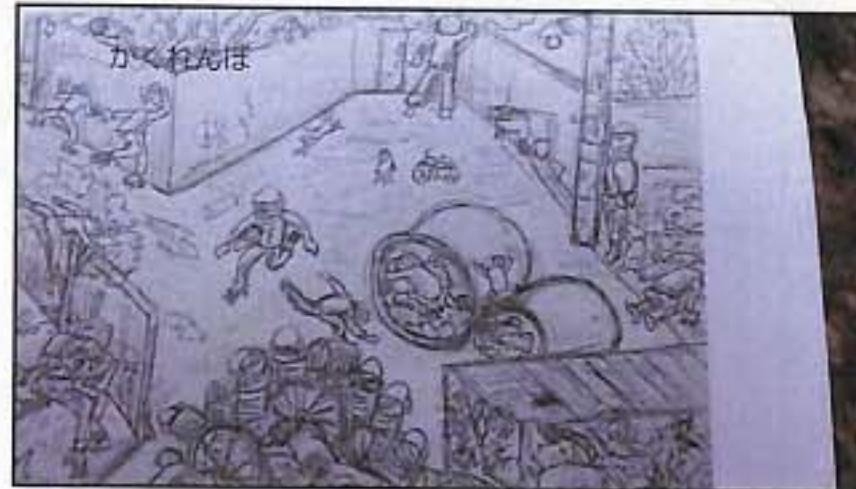
足でけり

タのタガ

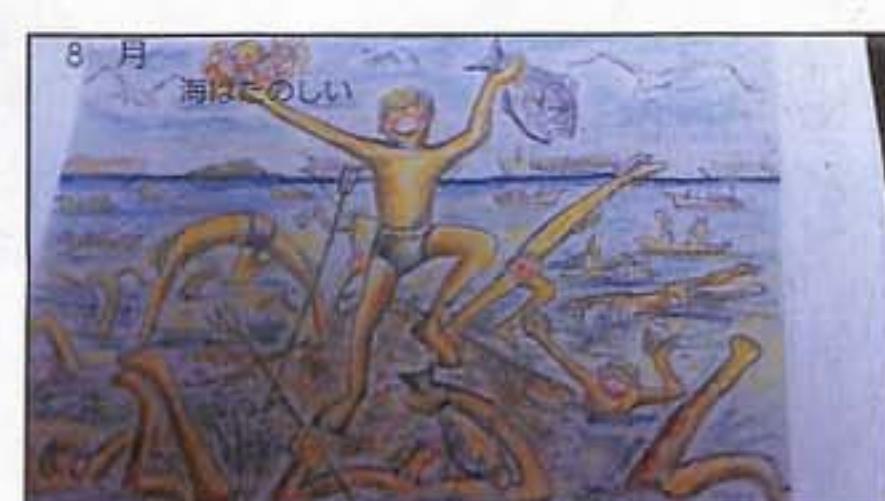
矢と弓も大変



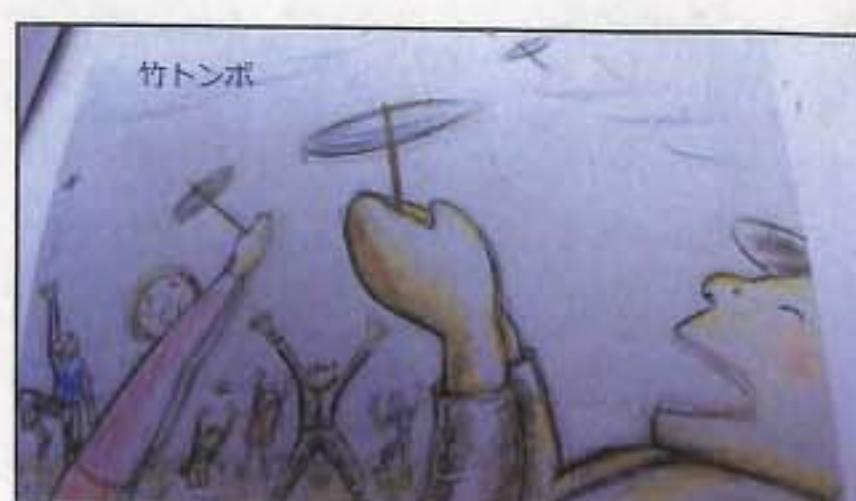
ホーリー下駄



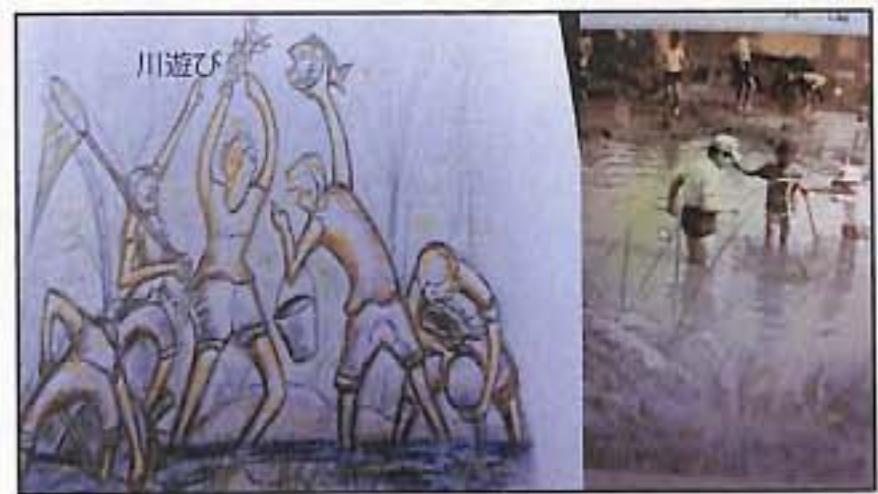
えの家



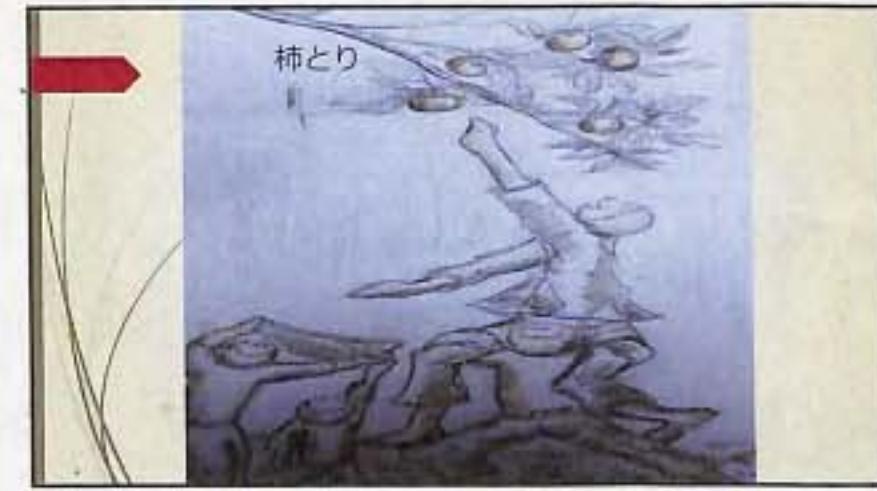
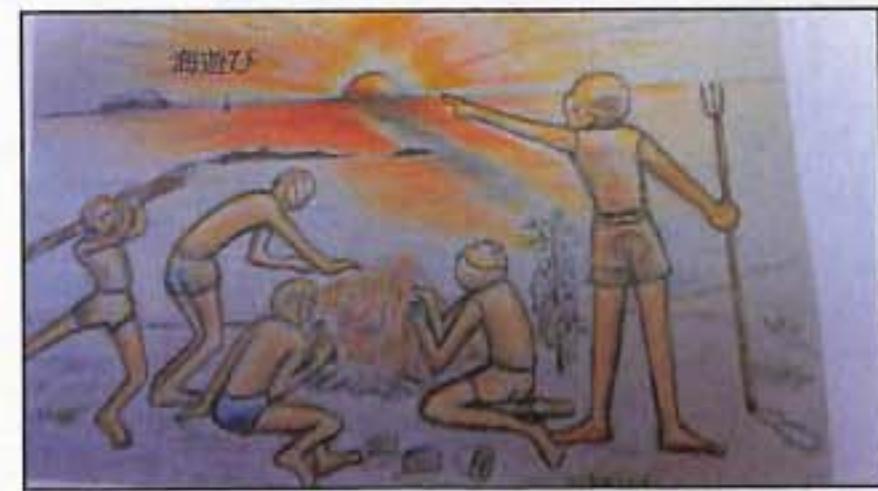
ひかけ



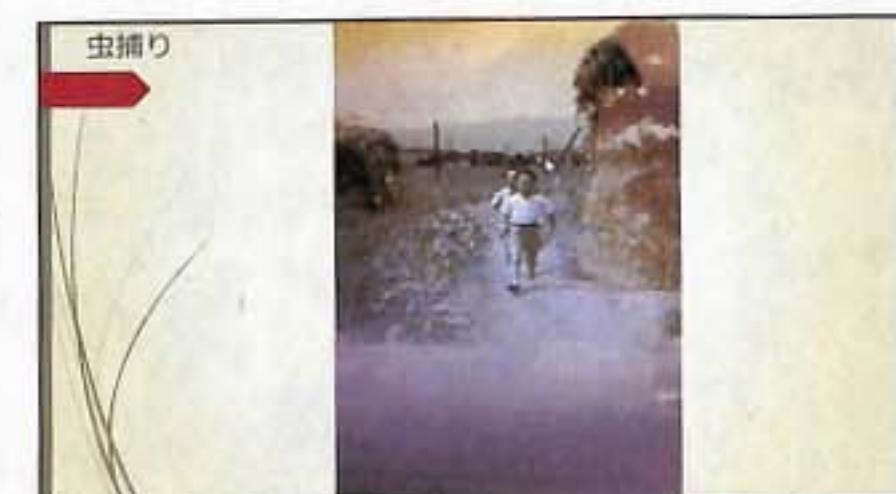
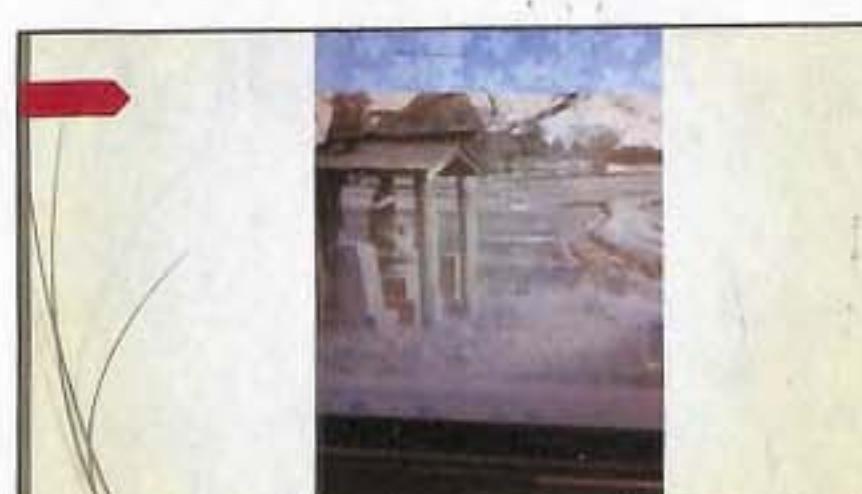
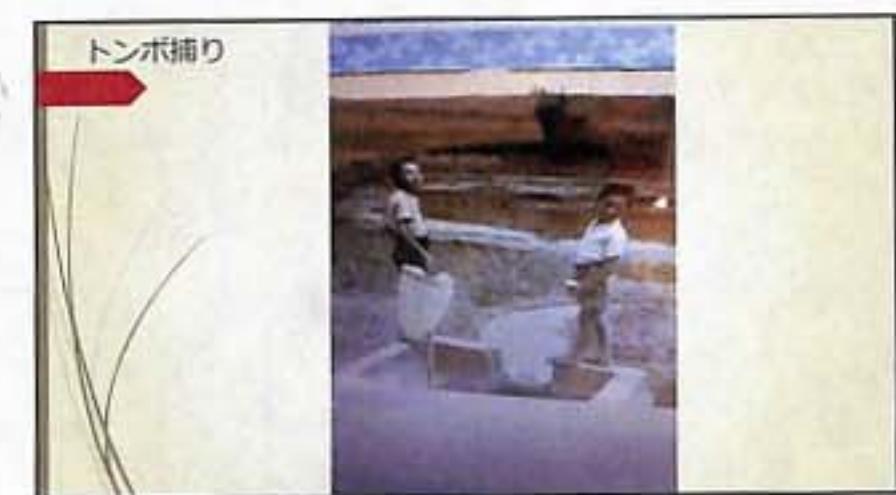
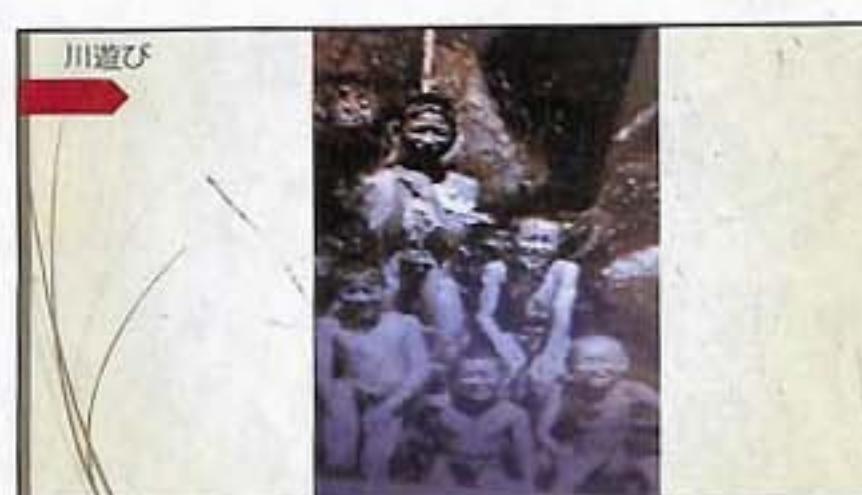
男イリ 水17
女イリ 27

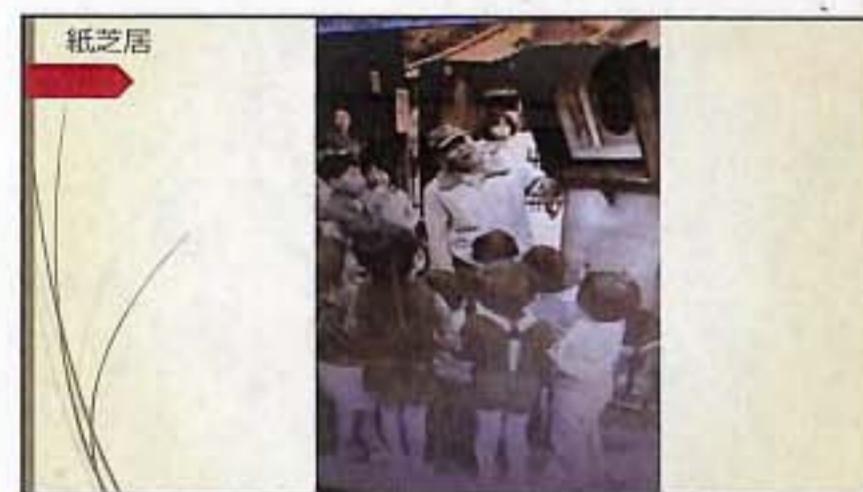


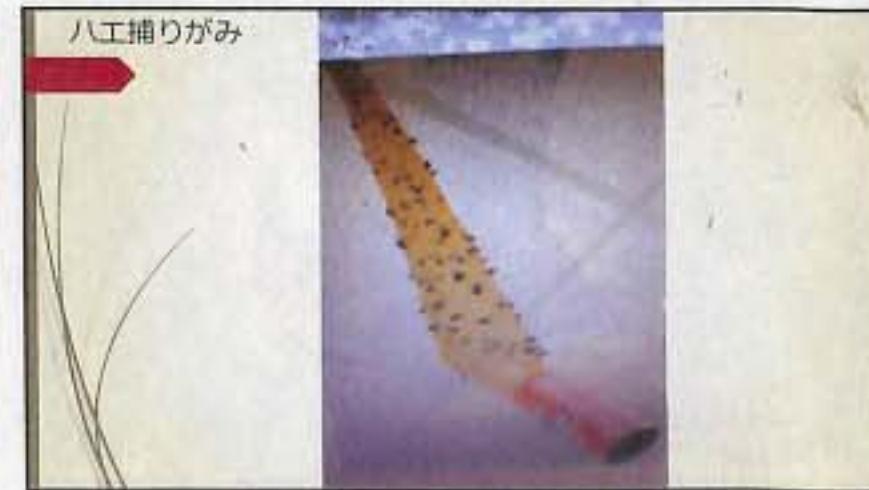
1月
水くみとぼう 川遊び

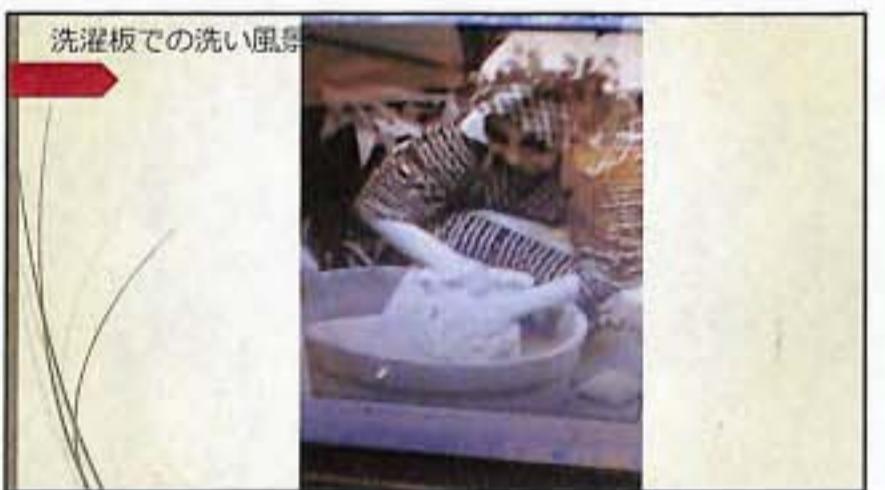


1月
水くみとぼう 川遊び









八幡公民館主催事業「八幡史学館」第19シリーズ第3回

太平洋戦争(第2次世界大戦)と八幡

山岸弘明 八幡史学館代表講師

令和6年8月6日 塚原 茂 鶴舞藩を知る会事務局長

- ①本土防衛に散った根本衛伍長を偲んで
- ②「八幡町忠靈塔」「市原市遺族名簿」にみる戦没地の解析
- ③市原市「てくてく散歩」(猫ひろし=わらく、魚惣)
おことわり=時間の都合で省略することがあります
- ④私の戦時中の記憶 国民学校生徒の太平洋戦争
- ⑤八幡魚惣と清水あき子さん インタビュー「いつまでもお元気で」



1)本土防衛に散った根本衛伍長を偲んで

昭和20年7月19日沖縄摩文仁地区戦死

故根本衛略歴

- ①大正5年5月菊間農業・根本由良治、とめ4男に誕生。昭和18年7月、八幡の老舗割烹旅館「しらとり」次女白鳥律子と結婚。長男有造をみごもるが、誕生前に出征。親子が対面することはなかった。
- ②佐倉歩兵53連隊入営、満洲國牡丹江第21軍事郵便所氣付第153部隊に配属、昭和19年、現地で受取ったはずの「軍事はがき」21通が残る。兄馨書状は「南方に出たと聞いた」とするが、19年秋ころに沖縄にまわされたようである。
- ③沖縄戦争は翌20年3月に始まる。4月1日米軍が嘉手納海岸(日本軍飛行場基地)に上陸、この間日本軍は1発の砲弾を打込むことなく上陸を見守った。日本軍の守備方針は「本

令和6年度「八幡史学館」次回以降の予定

- | | |
|-----|---|
| 第4回 | 9月10日(火曜日)=「八幡の地理学」 小関勇次(清和大学特任教授) |
| 第5回 | 10月8日(火曜日)=「八幡近郷における漢文学の展開」 辻井義輝(東洋大学東洋学研究所客員研究員) |
- 「八幡史学館」は、第20シリーズ令和7年度をもって終了します

八幡公民館だより



根本衛伍長

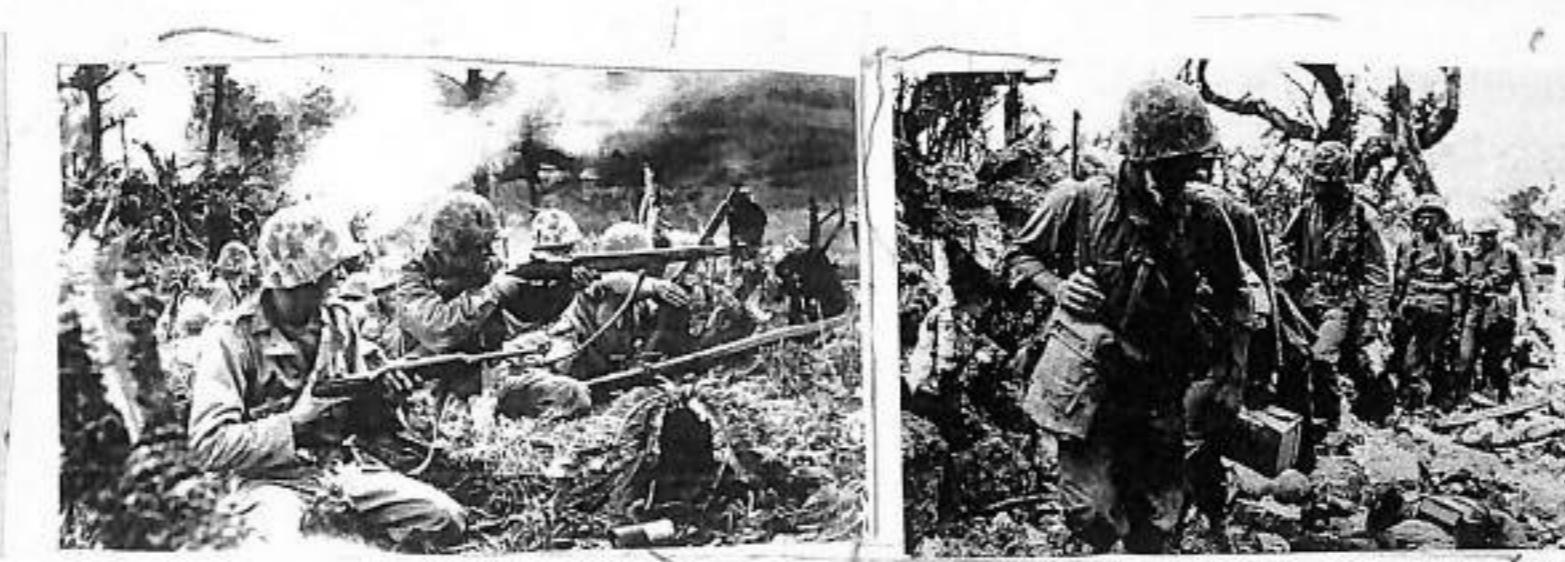


沖縄を完全包囲した米軍艦隊

八幡の戦時、戦後史にもう一話「わらく」根本有造(故人)家の昭和史にも触れる。大正五年、菊間の農家四男に生まれたが親子が一つ屋根の下に暮らすことはなかった。戦局悪化で満州からの軍事郵便も途絶え、終戦一年後に戦死通知。「戸籍謄本」は「昭和二十年七月十九日時刻不詳、沖縄本島摩文仁方面において戦死」を記す。二十九歳。摩文仁は牛島司令官、ひめゆり部隊が追い詰められた本島最南端、沖縄軍玉砕地だった。沖縄戦は、米軍主力艦隊が完全包囲、圧倒的物量作戦の艦砲射撃を雨あられと打込み、上陸隊が地上掃討した。民間人を含む日本人死者は二十万。「復帰後のツアード火炎放射器に焼けただれた壕を案内された時、「衛ちゃん、迎えにきたよ」と叫んだ母とかよのねばさんのひと声が忘れられません」生前に有造が話した。母は衛の兄馨と再婚、戦死者の家庭では珍しくなった。家族も増えた。町の賑わいとともに、「白鳥苑」支配人から「だいにんぐ喫茶・わらく」を開く。いま、妻のかつ枝さんが二人の思い出をこめた「のれん」を守る。

◆第三十九話◆八幡・根本家の太平洋戦争
八幡の戦時、戦後史にもう一話「わらく」根本有造(故人)家の昭和史にも触れる。大正五年、菊間の農家四男に生まれたが親子が一つ屋根の下に暮らすことはなかった。戦局悪化で満州からの軍事郵便も途絶え、終戦一年後に戦死通知。「戸籍謄本」は「昭和二十年七月十九日時刻不詳、沖縄本島摩文仁方面において戦死」を記す。二十九歳。摩文仁は牛島司令官、ひめゆり部隊が追い詰められた本島最南端、沖縄軍玉砕地だった。沖縄戦は、米軍主力艦隊が完全包囲、圧倒的物量作戦の艦砲射撃を雨あられと打込み、上陸隊が地上掃討した。民間人を含む日本人死者は二十万。「復帰後のツアード火炎放射器に焼けただれた壕を案内された時、「衛ちゃん、迎えにきたよ」と叫んだ母とかよのねばさんのひと声が忘れられません」生前に有造が話した。母は衛の兄馨と再婚、戦死者の家庭では珍しくなった。家族も増えた。町の賑わいとともに、「白鳥苑」支配人から「だいにんぐ喫茶・わらく」を開く。いま妻のかつ枝さんと娘千恵子さんがお店を守っている。

◆第三十九話◆八幡・根本家の太平洋戦争
八幡の戦時、戦後史にもう一話「わらく」根本有造(故人)家の昭和史にも触れる。大正五年、菊間の農家四男に生まれたが親子が一つ屋根の下に暮らすことはなかった。戦局悪化で満州からの軍事郵便も途絶え、終戦一年後に戦死通知。「戸籍謄本」は「昭和二十年七月十九日時刻不詳、沖縄本島摩文仁方面において戦死」を記す。二十九歳。摩文仁は牛島司令官、ひめゆり部隊が追い詰められた本島最南端、沖縄軍玉砕地だった。沖縄戦は、米軍主力艦隊が完全包囲、圧倒的物量作戦の艦砲射撃を雨あられと打込み、上陸隊が地上掃討した。民間人を含む日本人死者は二十万。「復帰後のツアード火炎放射器に焼けただれた壕を案内された時、「衛ちゃん、迎えにきたよ」と叫んだ母とかよのねばさんのひと声が忘れられません」生前に有造が話した。母は衛の兄馨と再婚、戦死者の家庭では珍しくなった。家族も増えた。町の賑わいとともに、「白鳥苑」支配人から「だいにんぐ喫茶・わらく」を開く。いま妻のかつ枝さんと娘千恵子さんがお店を守っている。



平和への願いを胸に刻む祈りの場
平和祈念公園 へいわきねんこうえん
第二次世界大戦最後の地上戦の舞台であり、沖縄戦最大の激戦地となった糸満市摩文仁にある公園。花と緑に彩られた園内には、沖縄県平和祈念資料館や平和の礎、沖縄平和祈念堂、国立沖縄戦没者墓苑、各県の慰靈塔などがある。
☎ 098-997-2765 (沖縄県平和祈念財団)
糸満市摩文仁 ①8:00~22:00 国無休 国入園無料 国あり
☎ 那覇空港から車で17km MAP 154 C-4

沖縄戦争主要行程

昭和20年、米軍はすでにフィリピンを奪回、硫黄島を玉砕させていた。日本軍にとって最後の「本土決戦」が迫っていた。沖縄戦争はその前哨戦でもあった。米軍は徹底的な物量作戦を展開して「沖縄上陸作戦」を敢行した。一方の沖縄軍司令部の作戦行動はあえて上陸させ、根強く抵抗し、本土決戦を一日も遅らせることであった。

20年3月現在の沖縄守備部隊

陸軍第32軍(司令官牛島満中将=19年3月、米軍上陸に備えて結成。軍司令部首里城地下壕) 第24師団一部、第62師団一部ほか8万5000人
民間県民=防衛隊2万5000人、少年勤王隊1700人(中学生以上)

救急看護衛生兵530人(女子生徒) 住民も軍と共同歩調をとる

海軍沖縄方面本拠地隊(司令官大田実海軍少将=小禄飛行場地下壕)

20年3月23日、米軍艦隊1300艘(司令官スブルーアンス海軍大将=大型空母9艘、護衛空母11艘、戦艦、駆逐艦、巡洋艦ほか)が沖縄本島を完全包囲

20年3月29日、米軍は沖縄本島に対する本格的な艦砲射撃と空母艦載機による空襲を開始。上陸前日までに打込まれた砲弾は12万発にのぼった。

① 4月1日午前5時30分、上陸地嘉手納・読谷海岸周辺に戦艦10艘、巡洋艦、駆逐艦など177艘の艦艇の大砲が一斉砲撃、「沖縄全島が海底に埋没するのでは」(生存者)と感じた。大型砲弾4万5千発、ロケット弾22万発、臼砲2万発などが雨あられと打ち込まれた。この間、日本軍は海岸線近くの丘上や地下壕で待ち受けた。午前8時30分米軍上陸隊が次々と上陸した。最前線隊は目の前の敵兵に歯ぎしり、再三砲撃許可をかけあうが、軍司令部は発砲を許可せず、むざむざと上陸を見守る結果になった。午后には嘉手納北飛行場、読谷中飛行場が占領された。喉元を破られた沖縄本島は南北に分断された。

② 4月3日、米軍は上陸点から5km南下した普天間近くまで前進。

③ 4月6日、沖縄戦場へ向けて最後の戦艦「大和」らの艦隊が出撃、「海上特攻」といわれる。7日鹿児島薩摩半島沖で米軍空母機により魚雷10発をくらって轟沈、乗員3700人が戦死した。

④ 4月12日、米軍は嘉数~宇和慶ラインに進出、沖縄軍は初めて大規模な夜襲、反抗作戦を決行したが敗退、再び持久戦術となる。

⑤ 4月19日、米軍はこれまでの第7師団と第96歩兵師団に加え新たに投入された第27歩兵師団を加えて総攻撃をかける。準備砲撃は首里の景観を一変。日本軍は洞窟や地下壕にこもって頑強に抵抗した。

⑥ 5月4日、米軍はその後も各地の日本軍陣地を攻略、三方向から首里を包囲した。

⑦ 5月29日、首里地下陸軍司令部を放棄、摩文仁地下壕に移して、全軍を撤退させた。

⑧ 5月31日、米軍、首里を占領。

⑨ 6月始め、摩文仁地区に撤退した日本軍は、八重瀬~与座岳~国吉台地ラインを結んだが、米軍にとっては残敵掃射にすぎない。追討はますます過激となる。

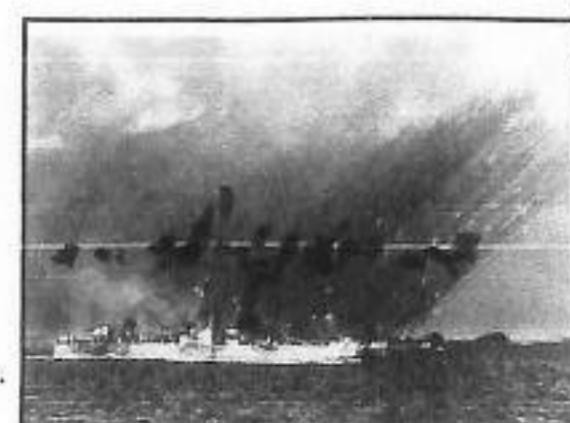
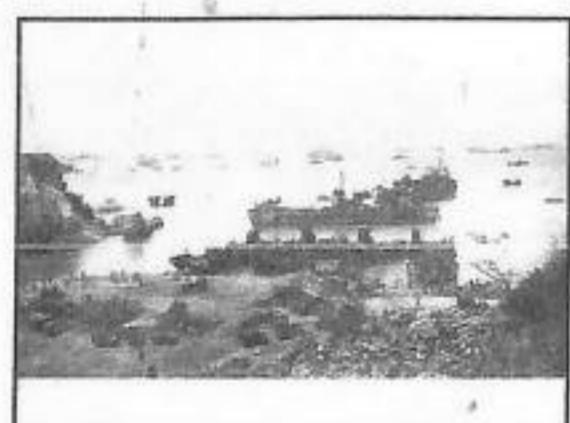
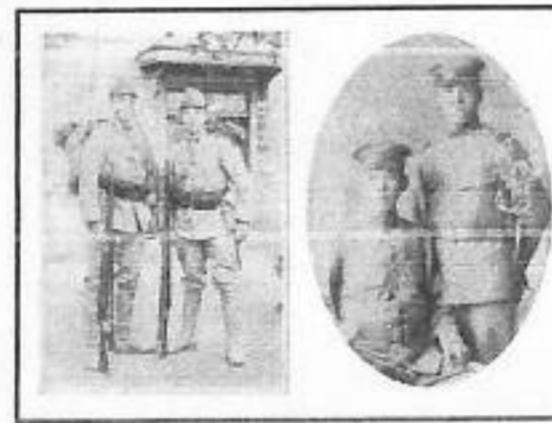
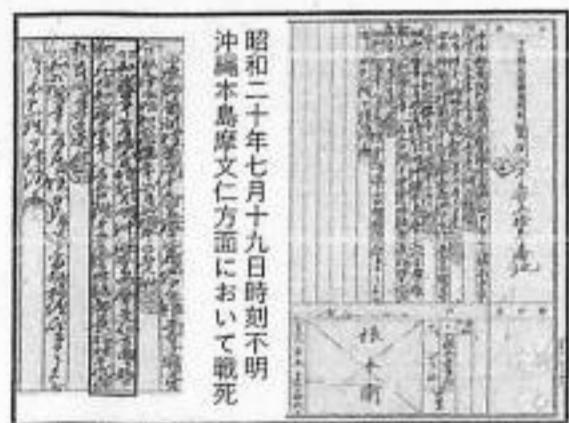
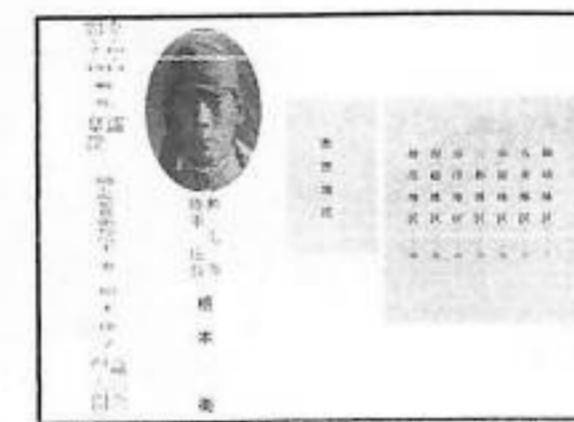
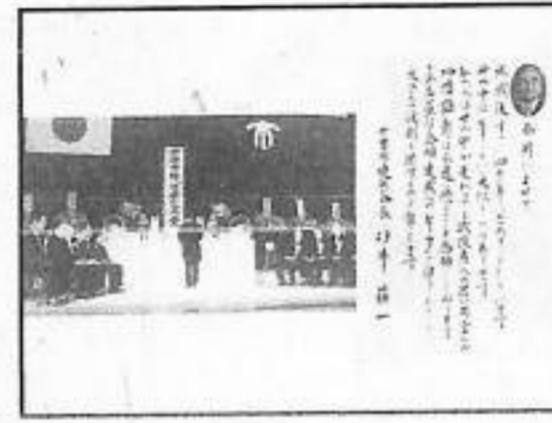
⑩ 6月12日、摩文仁司令部で陸軍部隊が壊滅

⑪ 6月13日、那覇小禄にとどまった海軍部隊が壊滅、太田実司令官が「沖縄県民かくたたかえり、県民に対し後世特別の御配慮をたまわらんことを」と打電した。

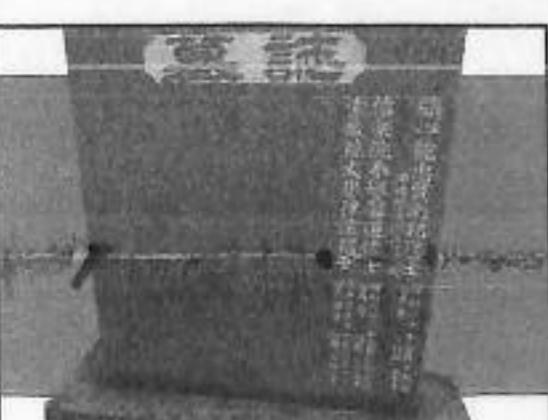
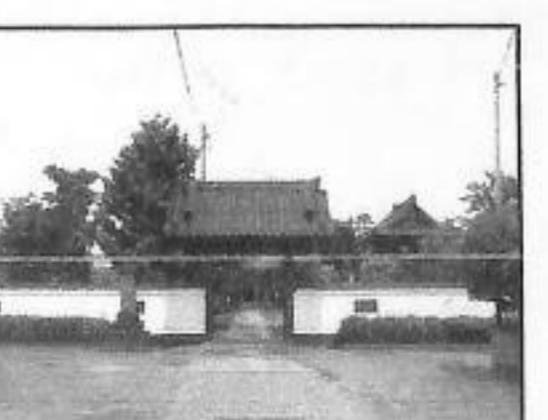
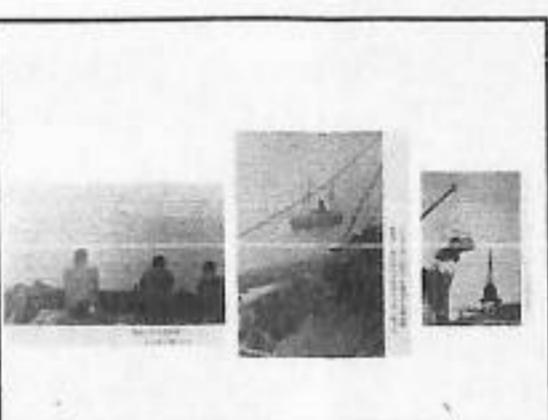
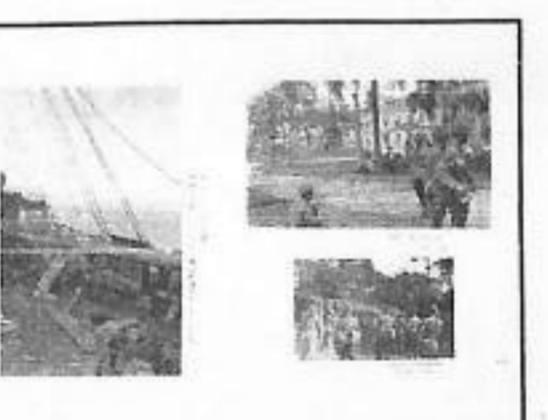
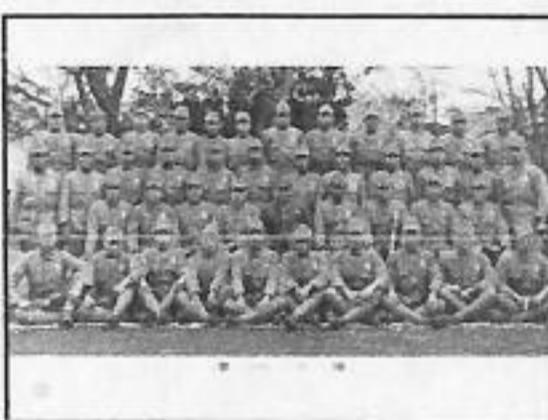
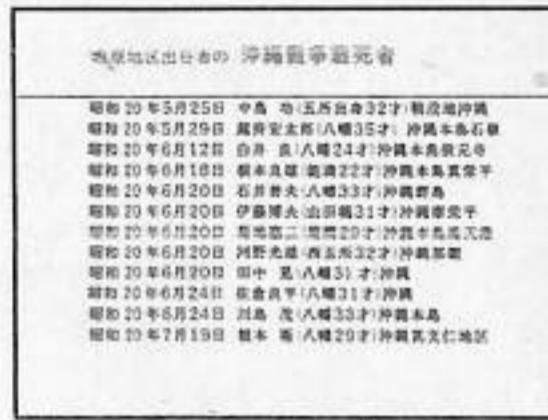
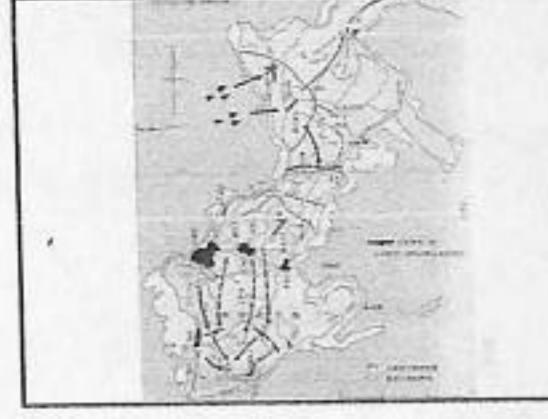
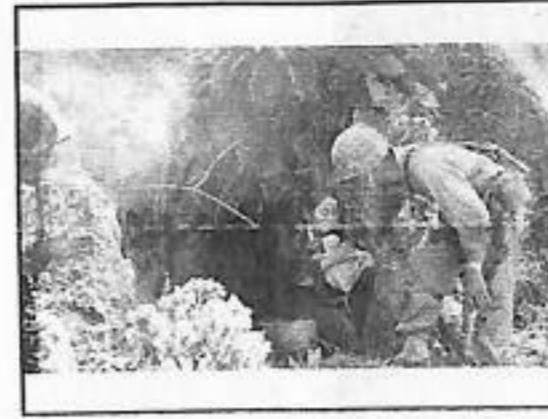
⑫ 6月後半、小さな地区に多人数が押掛けたことで、軍部と民間人との協力関係が崩れる。見放されての集団自決や摩文仁断崖からの投身者が続出した。ひめゆり部隊の多くは行き場を失って軍から渡された手りゅう弾で自決した。

⑬ 7月3日、米軍、沖縄作戦の終了を宣言。しかし、地下壕にこもった日本軍はなお抵抗を続けた。根本衛の戦死日は7月19日。地下壕の戦争は8月まで続いたといわれる。正式な降伏調印式は9月7日に行われた。

⑤

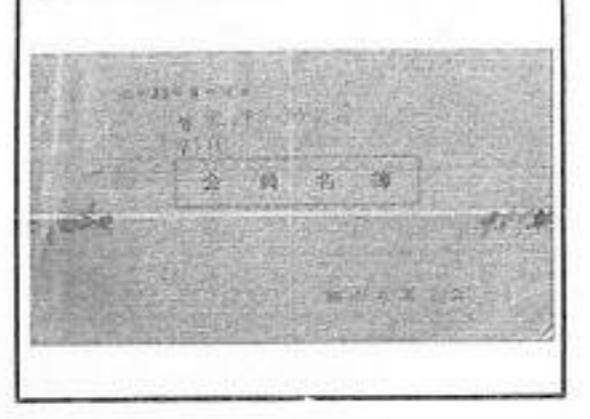
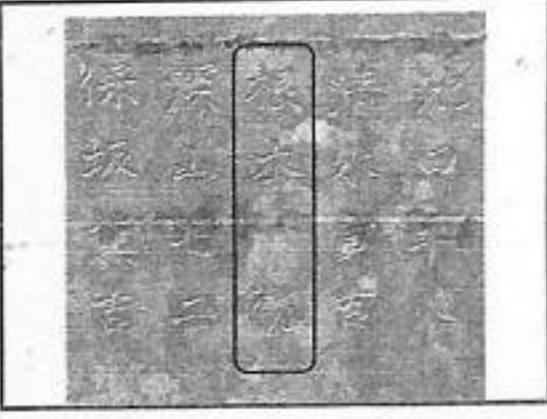
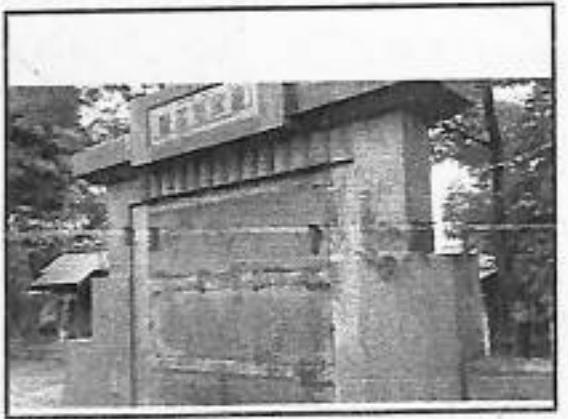


⑥



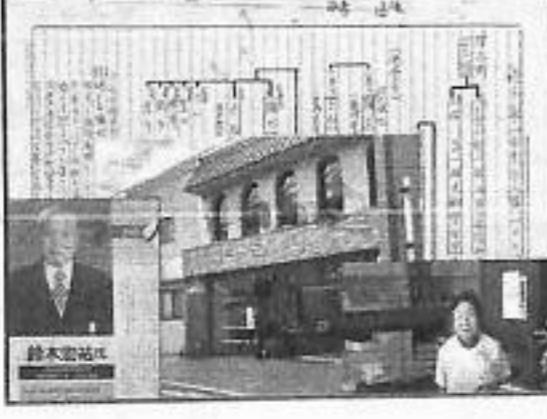
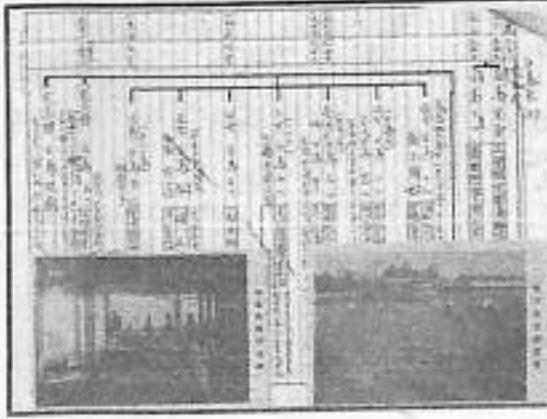
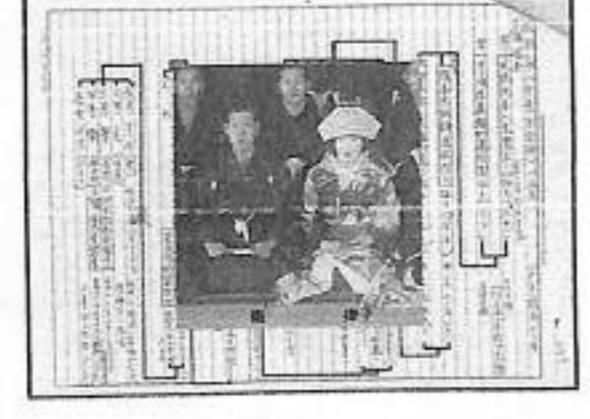
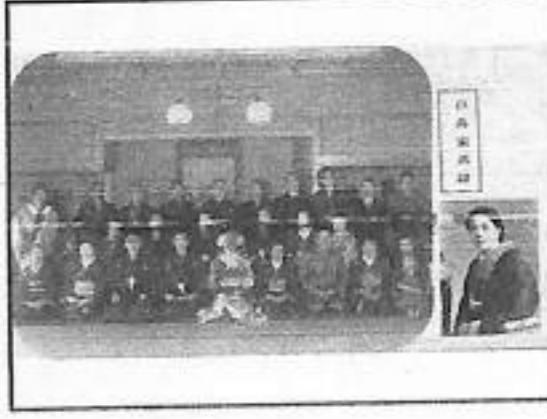
東京地区出立者の沖縄戦参戦者

昭和20年5月25日 中島 地五兵衛少佐(飛行機) 沖縄
昭和20年5月26日 鶴井定太郎(八幡35才) 沖縄本島石垣
昭和20年6月12日 白井 真(八幡24才) 沖縄本島翁来島
昭和20年6月15日 新井良雄(鹿嶋22才) 沖縄本島真栄平
昭和20年6月19日 井伊智夫(八幡32才) 沖縄那覇
昭和20年6月20日 伊藤義夫(鹿嶋31才) 沖縄那覇平
昭和20年6月20日 有田義重(鹿嶋29才) 沖縄那覇元度
昭和20年6月20日 河野光雄(西条32才) 沖縄那覇
昭和20年6月20日 田中 要(八幡3才) 沖縄
昭和20年6月24日 佐倉吉平(八幡31才) 沖縄
昭和20年7月15日 佐木 勝(八幡20才) 沖縄真木仁地区



7

中間規		監視場所	日付	監視責任者	新規則適用範囲
次	日	監	2000-09	佐藤田代行(リモート)	2000-9-1-2002-8-31
次	日	監	2001-1	高橋田代行(リモート)	2001-1-2002-8-31
次	月	監	2001-4	高橋田代行(リモート) 2ヶ月延長	2001-4-2002-8-31
次	月	監	2001-5	高橋田代行(リモート)	2001-5-2002-8-31
次	月	監	2001-9	鈴木田代行(リモート)	2001-9-2002-8-31
次	月	監	2001-11	高橋田代行(リモート) 過渡的監視実施	2001-11-2002-8-31
監		本	2002	高橋田代行(リモート) 2ヶ月延長	2002-9-2004-8-31
監	視	場	2002-12	高橋田代行(リモート) 2ヶ月延長	2002-12-2004-8-31
監	視	場	2003	高橋田代行(リモート) 2ヶ月延長	2003-1-2004-8-31
監	視	場	2003	高橋田代行(リモート) 2ヶ月延長	2003-1-2004-8-31
監	視	場	2004-1	鈴木田代行(リモート) 2ヶ月延長	2004-1-2004-8-31
監	視	場	2004-5	高橋田代行(リモート) 2ヶ月延長	2004-5-2004-8-31
監	視	場	2004-7	高橋田代行(リモート) 2ヶ月延長	2004-7-2004-8-31
監	視	場	2004-11	鈴木田代行(リモート)	2004-11-2004-8-31



ざいにんぐ喫茶 わらく

市原地区出征者の一 沖縄戦争戦死者

昭和 20 年 5 月 25 日	中島 功(五所出身32才)戦没地沖繩
昭和 20 年 5 月 29 日	藏持安太郎(八幡35才) 沖繩本島石嶺
昭和 20 年 6 月 12 日	白井 良(八幡24才)沖繩本島崇元寺
昭和 20 年 6 月 18 日	根本良雄(能満22才)沖繩本島真栄平
昭和 20 年 6 月 20 日	石井善夫(八幡33才)沖繩群島
昭和 20 年 6 月 20 日	伊藤博夫(山田橋31才)沖繩摩栄平
昭和 20 年 6 月 20 日	菊地嘉三(菊間29才)沖繩本島馬天港
昭和 20 年 6 月 20 日	河野光雄(西五所32才)沖繩那覇
昭和 20 年 6 月 20 日	田中 晃(八幡31才)沖繩
昭和 20 年 6 月 24 日	佐倉良平(八幡31才)沖繩
昭和 20 年 6 月 24 日	川島 茂(八幡33才)沖繩本島
昭和 20 年 7 月 19 日	根本 衡(八幡29才)沖繩真文仁地区

卷之三

1 官製はがき2種+1封	東京本郷□町25	1944 本郷昭和19-7-28	根本衛 植木□商	牡丹江第21軍事郵便所氣付満洲第153部隊福島隊	根本衛段
2 官製はがき2種+1封	千葉県市原郡菊間村	1944 菊間昭和19-8-7	根本厚 寧	牡丹江第21軍事郵便所氣付満洲第153部隊福島隊	根本衛段
3 官製はがき2種+1封	千葉県市原郡菊間村	1944 八幡昭和19-8-7	古川利さ	満洲國牡丹江第21軍事郵便所氣付満洲第153部隊福島隊	根本衛段
4 官製はがき3封	千葉県市原郡菊間村菊間	1944 千葉昭和19-8-9	根本かよの	満洲國牡丹江第221野戰軍第153部隊福島隊	根本衛段
5 軍事郵便はがき	千葉県市原郡菊間村菊間	1944 なし	根本かよの	満洲國牡丹江第221軍事郵便所氣付満洲第153部隊福島隊	根本衛段
6 檢問済	千葉県市原郡菊間村菊間	1944 千葉昭和19-8-10	市川良平	満洲國牡丹江第21軍事郵便所氣付満洲第153部隊福島隊	根本衛段
7 軍事郵便はがき	中支派遣軍9432大正隊	1944 なし	根本 実	満洲國牡丹江第21軍事郵便所氣付満洲第117部隊	根本衛段
8 檢問済	-	1944 なし	根本 篤	満洲國牡丹江第21軍事郵便所氣付満洲第153部隊	根本衛段
9 軍事郵便はがき	スマトラ派遣宣第3802部隊キナン	1944 なし	白鳥達雄	満洲國牡丹江省第21軍事郵便所氣付満洲第153部隊	根本衛段
10 軍事郵便はがき	牡丹江第21軍事郵便所満洲第153部隊福島隊	1944 なし	蓮澤吉郎	満洲第117部隊	根本衛段
11 軍事郵便はがき	スマトラ派遣宣第3802部隊キナン	1944 なし	白鳥達雄	満洲國牡丹江第21軍事郵便所氣付満洲第153部隊	根本衛段
12 軍事郵便はがき	南□派遣軍第547辻田吉郎福田隊	1944 なし	完木太郎	満洲國牡丹江第21軍事郵便所氣付満洲第153部隊	根本衛段
13 軍事郵便はがき	牡丹江第21軍事郵便所満洲第153部隊	1944 なし	根本 篤	満洲國牡丹江第21軍事郵便所氣付満洲第153部隊	根本衛段
14 軍事郵便はがき+3封	千葉市葛城町40日立航空機富士見寮内	1944 判斷不能	根本 実	満洲國牡丹江第21軍事郵便所氣付満洲第153部隊	根本衛段
15 官製はがき3封	1944 千葉昭和19-8-26	金子 □	満洲國牡丹江第21軍事郵便所氣付満洲第153部隊	根本衛段	
16 軍事郵便はがき	横須賀郵便局氣付24番7604部隊	1944 なし	矢島平八	満洲國牡丹江第21軍事郵便所氣付満洲第153部隊	根本衛段
17 軍事郵便はがき	満洲兵工省成萬子満洲第3770部隊	1944 なし	□蓮澤晋	牡丹江第21軍事郵便所氣付満洲第153部隊	根本衛段
18 軍事郵便はがき	佛印派遣軍第221野戰勤務所氣付宮崎隊	1944 なし	根本 篤	満洲國東安省實業團満洲第153部隊	根本衛段
19 官製はがき2種+1封	千葉市松見川町5-158	1944 千葉昭和19-7-21	中村かね子	牡丹江21軍事郵便所氣付満洲第153部隊	根本衛段



市原市の「戦没者名簿」をパソコン解析

①「日本遺族会」は戦没者の顕彰と慰靈、遺族の相互扶助、生活相談を目的に、昭和22年日本遺族厚生連盟として誕生、28年財団法人日本遺族会となった。毎年8月15日に「全国戦没者追悼式典を開催、旧戦場での遺骨収集などを行った。全国の県市町村に支部がある。当初104万人を数えたが、高齢化で減少、令和元年57万人。

②市原市遺族会は昭和39年、創立20周年に、記念式典を開催、「戦没者名簿」を発行した。

名簿は、戦没者ごとに

写真、陸海軍階位、氏名、生年月日、戦没年月日、戦病死の別、没地、戒名、

遺族会員続柄、氏名、住所を記載、遺族地区ごとに分類した。

姉崎地区350柱、五井地区482柱、市原地区322柱

三和地区283柱*、市津地区271柱*、南総地区480柱*、加茂地区364柱*

合計2557柱(欠落5柱=+のいずれか)

③この内、市原地区戦没者についてパソコンでデーター解析した。

①あいえお順一覧表(省略)

②遺族会員住所別一覧表(〃)

③陸海軍別生年、没年順一覧表(〃)

④陸海軍別、没年順、没令、没地、戦場付一覧表

④遺族会員住所別では、

市原10柱(陸軍5+海軍5)、大厩16(14+2)、草刈19(15+4)、郡本17(17+2)、
五所、旭西東五所34(24+10)、白金4(4+0)、辰巳台3(2+1)、能満32(28+3*)、
藤井10(9+1)、古市場15(12+3)、門前6(6+0)、山木17(12+5)、山田橋13(10+3)、
八幡、北、石塚99(67+32)、その他千葉、横浜など6(3+3)

⑥海軍の戦闘名、戦没地区別では

昭和16年、真珠湾、マレー沖海戦、シンガポール占領など 戦没者なし

昭和17年、ミッドウェイ海戦で大敗、制海権、制空権を失う。虚偽報道 戦没者3名

昭和18年、ガダルカナル、アツツ玉碎。南太平洋で5名

昭和19年、マリアナ沖、レイテ沖海戦大敗。南太平洋、フィリピンで24名

昭和20年、3月硫黄島、東京大空襲、6月沖縄玉碎、広島原爆投下、ソ連参戦、終戦。
日本近海、硫黄島の戦い、沖縄戦争、フィリピンなど戦没地もばらばら、終戦への最終段階を示している。この年だけで32名が戦死している

⑦陸軍の戦闘地、戦没地区別では

昭和12年、日中戦争開戦、中華民国満洲大陸各地、戦没者3名

昭和13年、日中戦争、大陸、3名

昭和14年、ヨーロッパで第2次世界大戦始まる。日中戦争、大陸、ノモンハン、6名

昭和15年、日独伊三国同盟成立。日中戦争、大陸、1名

昭和16年、真珠湾攻撃、マレー沖海戦勝利、太平洋戦争始まる。大陸、1名

昭和17年、マニラ、シンガポール、ジャワ占領、ミッドウェイ海戦に敗れた。大陸、2名

昭和18年、ガダルカナル、アツツ島玉碎。ニューギニア、ガダルカナル、大陸、10名

昭和19年、マリアナ海戦、サイパン島陥落、レイテ沖海戦大敗。南太平洋、ニューギニア、
フィリピンなど一気に48名、28%にあたった。

昭和20年、硫黄島、沖縄戦争玉碎、東京大空襲、広島長崎原爆投下、ソ連参戦満洲侵攻、
終戦。戦没地はニューギニア、フィリピン、ルソン島の戦い、硫黄島玉碎、沖縄戦争、
ソ連侵攻、本土防衛、ソ連抑留など。戦没者はこの年だけで89名、51%に達した。

⑧佐倉53連隊は北満の守りを主任務としたが、昭和19年一部が激戦のフィリピン、沖縄
に配属され多くの犠牲者が出了。また残留軍もソ連軍の厳しい追撃を受けた。

市原地区戦没者名簿(陸海軍別没年順)

ページ	陸軍	海軍	氏名	没年西暦	生年西暦	満齢	戦死	戦闘または地区名	戦没地	追族住所	備考
			海軍戦死者	年月	年月						
213	1	中村正嗣	193508	191411	20	1	南太平洋サイパン	テニアン島	草刈		
			1937日中戦争開始				/				
			193909第2次世界大戦開戦								
			194112真珠湾奇襲攻撃、イギリス領マレー沖海戦、マレー半島奇襲攻撃								
			194202マニラ占領、03シンガポール占領、ジャワ島占領								
			194206ミッドウェー海戦大敗(以降制海権、制空権を失っていく)								
178	1	魚路 章	194206	191507	26	1	中部太平洋	ミッドウェー海戦	草刈		
226	1	宮原政栄	194208	192401	18	1	南太平洋	ソロモン諸島	八幡		
191	1	河野清作	194209	192308	19	1	南太平洋	ソロモン海峽	西五所		
			194302ガダルカナル島撤退、05アツツ島玉碎								
223	1	松田春美	194302	192101	22	1	南太平洋	本州南洋海上	八幡		
172	1	石川良二	194310	192311	19	1	南太平洋	ソロモン諸島	辰巳台		
229	1	山越由治	194311	191110	32	1	南太平洋	ギルバ島方面	市原		
199	1	鈴木長胤	194311	191803	25	1	南太平洋	南洋方面	八幡		
229	1	山形重吉	194312	191002	33	1	南太平洋	南方海上方面	能満		
			194406マリアナ沖海戦、07サイパン島陥落、10レイテ沖海戦大敗								
229	1	山越一栄	194401	190411	39	1	南太平洋	南方海上方面	市原		
200	1	須藤 昇	194402	192608	17	1	南太平洋	マーシャル諸島	古市場		
209	1	時田 實	194402	192103	22	1	南太平洋	南洋群島方面海上	五所		
196	1	白井重治	194403	192705	16	1	南太平洋	南洋群島方面	市原		
192	1	近藤辰次郎	194407	190903	35	1	南太平洋	南洋群島	八幡		
194	1	佐久間兼吉	194407	191007	34	1	東京都の島嶼部	小笠原諸島	八幡		
199	1	鈴木千章	194407	192504	19	1	南太平洋	モルッカ諸島方面	八幡		
199	1	鈴木 盛	194407	190701	37	1	南太平洋	サイパン島	八幡		
218	1	野城郁郎	194407	190111	42	1	太平洋	太平洋上	山木		
223	1	松崎一郎	194407	192611	17	1	南太平洋	サイパン島	五所	軍属	
228	1	森山富吉	194407	191101	33	1	南太平洋	グアム島	八幡		
232	1	米澤利一	194407	191702	27	1	南太平洋	サイパン島	八幡		
234	1	大野傳吉	194407	191708	26	1	南太平洋	マリアナ諸島トラック島	八幡		
171	1	石井敏雄	194408	191709	26	1	インド洋	インド洋	八幡		
173	1	井尻信三郎	194408	191209	31	1	南太平洋	サイパン諸島	八幡		
173	1	市川 栄	194408	192504	19	1	中華民国	海南島	八幡		
209	1	東條敬之助	194408	192107	23	1	東京都の島嶼部	小笠原近海	山木		
224	1	松本 宣	194408	192103	23	1	南太平洋	テニアン島	八幡		
170	1	天羽盛雄	194409	191002	34	1	フィリピン	フィリピン海域	八幡		
192	1	斎藤新蔵	194409	191006	34	1	ニューギニア	ニューギニア	五所	軍属	
201	1	須藤 操	194410	192202	22	1	太平洋	台湾沖海	八幡		
220	1	藤井道太郎	194410	192303	21	1	フィリピン沖	フィリピン沖	八幡		
169	1	朝倉三雄	194411	191109	23	1	南太平洋	ソロモン方面	八幡		
179	1	太田光雄	194411	191808	26	1	フィリピン沖	フィリピン沖	郡本		
			194503硫黄島玉碎、東京大空襲、06沖縄戦玉碎、08広島原爆投下、ソ連参戦満洲侵攻、終戦								
182	1	岡本良知	194501	191304	31	1	東京都の島嶼部	小笠原諸島方面	五所		
195	1	下山 党	194501	192705	17	1	南太平洋	南太平洋	古市場	軍属嘱託	
189	1	小出昭三	194502	187011	74	1	北太平洋方面	北太平洋方面	大厩		
205	1	多知花秀夫	194502	192202	23	1	南太平洋	パラオ諸島	八幡		
208	1	鶴岡重蔵	194502	192107	23	1	南太平洋	南洋ウォッセ島	山田橋		
214	1	永井信男	194502	192202	23	1	ニューギニア	ニューギニア海域	山田橋		
220	1	福田輝男	194502	192512	19	1	フィリピン	フィリピンマニラ	五所		
177	1	今井良夫	194503	192307	21	1	硫黄島の戦い	硫黄島	菊間		
178	1	植松一夫	194503	191410	30	1	中華民国	上海東方海上	八幡		
219	1	原 健一	194503	192811	16	1	硫黄島の戦い	硫黄島	五所		

227	1	森 貴	194503	191601	29	1	硫黄島の戦い	硫黄島	松崎	
228	1	森山敏正	194503	191205	32	1	硫黄島の戦い	硫黄島	能満	
234	1	渡辺 弘	194503	191508	29	1	硫黄島の戦い	硫黄島	大厩	
195	1	滑水三郎	194504	192201	23	1	マニラ	マニラクラーク飛行場	八幡	
203	1	高橋萬雄	194504	190610	38	1	インドネシア	スタンダ列島	八幡	
208	1	鶴岡良一	194504	191701	28	1	中部太平洋	中部太平洋方面	菊間	
210	1	中島義郎	194504	191710	27	1	フィリピン	フィリピンクラーク地区	五所	
227	1	森 隆	19450418	19160920	28	1	沖縄戦	沖縄方面	市原90	
198	1	杉江健吾	194505	191202	33	1	南太平洋	内南洋方面	横浜市	
223	1	牧野俊雄	194505	191102	34	1	日本(本土防衛)	徳山市海軍燃料廠	八幡北町	
227	1	深山七二	194505	192204	23	1	フィリピン	フィリピンネグロス島	八幡	
209	1	富川高治	194506	189804	47	1	日本(本土防衛)	千葉大原沖	白金町	
193	1	斎藤殿五郎	194507	190606	39	1	中国	海南島	八幡	
193	1	斎藤 满	194507	192609	18	1	日本(本土防衛)	静岡県新居町	草刈	
202	1	泉水正雄	194507	192506	20	1	日本(本土防衛)	静岡県浜名海兵团	藤井	
206	1	田中豊吉	194507	192811	16	1	日本(本土防衛)	静岡県浜名海兵团	白金町	
214	1	永島武男	194507	192606	19	1	日本(本土防衛)	静岡県浜名海兵团	五所	
216	1	永野 進	194507	192610	18	1	日本(本土防衛)	静岡県浜名海兵团	山木	
224	1	松本之文	194507	191811	26	1	日本(本土防衛)	鳥羽港	八幡	
204	1	高橋 要	194508	191101	34	1	日本(本土防衛)	三陸沖海面	能満	
207	1	田中孝一	194508	192201	22	1	日本(本土防衛)	宮崎県都ノ城	旭五所	
221	1	藤崎 栄	194508	191309	31	1	インドネシア	ハルマヘラ島	古市場	
陸軍戦死者										
1937日中戦争開始										
211	1	中村三好	193707	191610	20	1	日中戦争	中華民国駐屯陸軍病院	草刈	
216	1	錦織勝次郎	193710	190304	34	1	日中戦争	支那江蘇省	八幡	
217	1	根本力雄	193710	190906	28	1	日中戦争	中華民国江蘇省	古市場	
188	1	小出綱三	193807	190109	36	1	日中戦争	中国揚子江上流	大厩	
185	1	譲 申朔	193808	190611	31	1	日中戦争	中支	菊間	
231	1	山本勢次郎	193810	191511	22	1	日中戦争	中華民国湖北省	能満	
193909第2次世界大戦開戦										
205	1	竹内達悟	193904	191607	22	1	日中戦争	中華民国湖北省	古市場	
211	1	中村清一	193904	191804	21	1	日中戦争	中華民国河北省	草刈	
172	1	石川郁雄	193908	191307	26	1	日中戦争	ノモンハン	八幡	
186	1	菊地文吉	193909	191200	27	1	日中戦争	湖南省	菊間	
218	1	野城錦吾	193909	191303	26	1	日中戦争	中華民国江西省	山木	
178	1	宇田川邦治	193910	191506	24	1	日中戦争	中支高郭城付近	八幡	
211	1	中村倉吉	194007	191708	22	1	日中戦争	北支山東省	五所	
194112真珠湾奇襲攻撃、イギリス領マレー沖海戦、マレー半島奇襲攻撃										
212	1	中村友吉	194108	191710	23	1	日中戦争	中支上海	草刈	
211	1	中村今雄	194109	192007	21	1	日中戦争	中華民国山東省	草刈	
169	1	安達正一	194110	191802	23	1	日中戦争	北支河南省	草刈	
188	1	小出忠義	194110	191709	24	1	日中戦争	中国安徽省	大厩	
188	1	小出保司	194111	191902	22	1	日中戦争	河北省	大厩	
194202マニラ占領、03シンガポール占領、ジャワ島占領										
194206ミッドウェー海戦大敗(以降制海権、制空権を失っていく)										
183	1	小川 高	194208	192010	21	1	日中戦争	中華民国	藤井	
174	1	伊藤幸吉	194211	191409	28	1	日中戦争	滿州奉天省	山田橋	
194302ガダルカナル島撤退、05アツ島玉碎										
215	1	永野秀雄	194302	191902	24	1	ニューギニア	ニューギニア方面	八幡	
173	1	市川三郎	194305	191910	23	1	日中戦争	北支	八幡	
171	1	池田平八	194308	190801	35	1	日中戦争	溝州國	八幡	
180	1	大野敏夫	194310	192103	22	1	ニューギニア	ニューギニア	菊間	
196	1	白井幸一郎	194310	192209	21	1	日中戦争	中支	八幡	
227	1	森 軍司	194310	189503	48	1	日中戦争	東支那海	八幡	

210	1		中島 清	194311	191407	29	1	ニューギニア	ニューギニア	八幡	
192	1		斎藤八郎	194312	191907	24	1	不明	記載なし	山木	
198	1		須佐芳春	194312	191908	24	1	南太平洋	ガダルカナル	旭五所	
222	1		堀内俊治	194312	192106	22	1	日中戦争	中華民国山東省	菊間	
194406マリアナ沖海戦、07サイパン島陥落、10レイテ沖海戦大敗											
187	1		小池信平	194401	192301	21	1	フィリピン	フィリピンレイテ島	能満	
189	1		小出 晃	194402	191705	26	1	南太平洋	マーシャル諸島ブラン	大厩	
177	1		井原文男	194404	192107	22	1	ニューギニア	東部ニューギニア	能満	
189	1		小出治二	194404	191506	28	1	南シナ海	北緯18度6'、東経119度6'	大厩	
201	1		閑 善次郎	194404	191404	30	1	ニューギニア	ニューギニア	八幡	
224	1		松田安之	194404	191108	32	1	ニューギニア	東部ニューギニア	八幡	
233	1		渡辺康成	194404	192104	23	1	ニューギニア	ニューギニア	八幡	
185	1		金子信夫	194404	192010	23	1	フィリピン	フィリピンベリリウ島	能満	
178	1		岩上倉吉	194405	192212	21	1	フィリピン	フィリピンマニラ	郡本	
197	1		白鳥弥吉	194405	191003	34	1	ニューギニア	ニューギニアアルソ	八幡	
230	1		山越康治	194405	191111	33	1	ニューギニア	東部ニューギニア	若宮	
175	1		伊藤芳郎	194406	191812	25	1	ニューギニア	ニューギニアスマタイン	八幡	
184	1		勝吉次郎	194406	192011	23	1	ニューギニア</			

199	1	鈴木忠司	194501	191710	27	1	フィリピン	フィリピンミンダナオ近海	菅野	
213	1	中村利喜男	194501	192503	19	1	フィリピン	中華民国江西省	草刈	
219	1	平田 賢	194501	192009	24	1	ニューギニア	西部ニューギニア	八幡	
229	1	山越 邦	194501	191903	25	1	ニューギニア	ニューギニア島ボイキン	八幡	
230	1	山越由松	194501	191909	25	1	ビルマ	ビルマ諸島ウンベ	郡本	
179	1	大塚義正	194502	191808	26	1	フィリピン	フィリピンマウンテン州	八幡	
180	1	大塚 守	194502	192003	24	1	ニューギニア	ニューギニア	五所	
184	1	小倉好三	194502	192109	23	1	フィリピン	フィリピンルソン島	能満	
196	1	白井善治	194502	192303	21	1	中華民国	中華民国湖南省	市原	
196	1	白井正夫	194502	192202	23	1	フィリピン	フィリピンマニラ	市原	
201	1	関 正次	194502	192108	23	1	ニューギニア	ニューギニア	八幡	
203	1	高梨 武	194502	191009	34	1	ニューギニア	西部ニューギニア	八幡	
205	1	竹内 真	194502	191905	25	1	フィリピン	フィリピン中部ルソン島	古市場	
219	1	長谷川巳三郎	194502	191701	28	1	ニューギニア	ニューギニア島	五所	
231	1	山田 求	194502	191710	27	1	フィリピン	フィリピンマニラ	八幡	
170	1	天羽彦蔵	194503	191803	27	1	硫黄島	硫黄島	菊間	
176	1	井原義治	194503	191704	27	1	硫黄島	硫黄島	能満	
179	1	近江理吉	194503	190903	36	1	フィリピン	フィリピンルソン島	八幡	
182	1	岡本新誠	194503	192301	22	1	フィリピン	フィリピンルソン島	五所	
190	1	小出 稔	194503	192206	22	1	硫黄島	硫黄島	大既	
191	1	小林優一郎	194503	191710	27	1	南シナ海	中国南支那海	八幡	
212	1	中村栄太郎	194503	191512	29	1	東京都島嶼	御藏島付近海上	五所	
212	1	中村卯吉	194503	192201	23	1	フィリピン	フィリピン	五所	
214	1	中村留吉	194503	191212	32	1	フィリピン	フィリピンバラワン島	五所	
215	1	永野覚次	194503	191902	26	1	硫黄島の戦い	硫黄島	八幡	
224	1	松本英達	194503	191611	28	1	硫黄島の戦い	硫黄島	八幡	
225	1	丸 嶽吉	194503	191303	32	1	硫黄島の戦い	硫黄島	八幡	
226	1	宮井商藏	194503	191102	34	1	フィリピン	フィリピンルソン島	郡本	
230	1	山崎義一	194503	192105	23	1	中華民国	中華民国江蘇省	八幡	
230	1	山路昌介	194503	192211	22	1	インドネシア	モロタイ島チライ	能満	
185	1	川上鶴祥	194503	191705	27	1	ニューギニア	ニューギニア	八幡	
216	1	並木豊太郎	194503	191912	25	1	ビルマ	ビルマ	八幡	
175	1	伊藤 博	194504	191608	28	1	フィリピン	フィリピンルソン島	山木	
176	1	井原良平	194504	191909	25	1	フィリピン	中部ルソン島	能満	
180	1	大野秀雄	194504	191605	28	1	南太平洋	南洋群島方面	八幡	
200	1	鈴木小二郎	194504	191509	29	1	フィリピン	フィリピンルソン島	八幡	
203	1	園山徳三郎	194504	190907	35	1	フィリピン	フィリピンルソン島	菊間	
215	1	永野広司	194504	192309	21	1	フィリピン	フィリピン群島ルソン島	山木	
227	1	森 正男	194504	192210	22	1	中華民国	中支	門前	
222	1	本間 隆	194504	192303	22	1	韓国	濟州島	千葉市	
169	1	安達聰明	194505	191911	25	1	フィリピン	フィリピンルソン島	古市場	
171	1	石井常雄	194505	191603	29	1	フィリピン	フィリピンルソン島	八幡	
172	1	石川 栄	194505	191612	28	1	フィリピン	フィリピンソン島	能満	
181	1	大野達雄	194505	191711	27	1	フィリピン	ルソン島	草刈	
187	1	藏持安太郎	19450529	19101110	35	1	沖縄戦	沖縄本島石嶺	八幡	
190	1	小出昌義	194505	191108	33	1	フィリピン	フィリピンマニラ東方	草刈	
190	1	小出芳太郎	194505	192508	19	1	日本(東京空襲)	東京赤坂	大既	
202	1	岡本武雄	194505	191205	33	1	中華民国	中華民国湖南省	五所	
202	1	泉水国明	194505	192201	23	1	フィリピン	フィリピンルソン島	藤井	
210	1	中島 功	19450525	19121025	32	1	沖縄戦	沖縄	五所	
214	1	中村正質	194505	191912	25	1	フィリピン	フィリピンレイテ島	五所	
218	1	野城泰蔵	194505	191511	29	1	フィリピン	フィリピンルソン島	山木	
219	1	橋本行雄	194505	191904	26	1	フィリピン	フィリピンルソン島	菊間	
171	1	石井善夫	19450620	19110731	33	1	沖縄戦	沖縄群島	八幡	
175	1	伊藤博夫	19450620	19141214	31	1	沖縄戦	沖縄真栄平	山田橋	
186	1	川島 茂	19450624	19110730	33	1	沖縄戦	沖縄本島	八幡	

186	1	菊地嘉三	19450620	19160101	29	1	沖縄戦	沖縄本島馬天港	菊間	軍属
190	1	小出梅吉	194506	192005	25	1	フィリピン	ルソン島	能満	
191	1	河野光雄	19450620	19120825	32	1	沖縄戦	沖縄那覇	西五所	
194	1	佐倉良平	19450624	19140430	31	1	沖縄戦	沖縄	八幡	
196	1	白井 良	19450612	19210101	24	1	沖縄戦	沖縄本島崇元寺	八幡	
198	1	進藤 清	194506	190912	35	1	地区不明	ハルマヘラロロバタ	八幡北町	
203	1	高橋一夫	194506	192504	20	1	中華民国	北支	山木	
207	1	田中 混	19450620	19140219	31	1	沖縄戦	沖縄	八幡	
210	1	中田重治	194506	191802	27	1	ビルマ	ビルマチエゾウ付近	八幡	
217	1	根本良雄	19450618	19220925	22	1	沖縄戦	沖縄本島真栄平	能満	
232	1	鎌田嘉一郎	194506	191001	35	1	フィリピン	フィリピンレイテ島	山木	
233	1	若菜幸次郎	194506	191801	27	1	フィリピン	フィリピンルソン島	山田橋	
179	1	内村藤次郎	194507	190904	36	1	フィリピン	フィリピンミンダナオ	八幡	
180	1	大根光之	194507	192310	21	1	フィリピン	フィリピンミンダナオ	八幡	
217	1	根本 衛	19450719	19160113	29	1	沖縄戦	沖縄摩文仁地区	八幡	戸籍に修正
182	1	岡本喜代司	194507	191112	33	1	フィリピン	フィリピン	郡本	
183	1	岡本 貢	194507	192210	22	1	フィリピン	フィリピンレイテ島	郡本	
192	1	近藤弥太郎	194507	191509	29	1	フィリピン	ルソン島	古市場	
204	1	高山信太郎	194507	191311	31	1	中華民国	中華民国広西省	八幡	
213	1	中村義彰	194507	192012	24	1	フィ			

明治27年竣工の割烹料亭・濱本の「魚惣」 清水あき子さん

先代が村田英雄や二葉百合子など呼んで興行を張ったりした。梅鶯さんは興行帰りには、よく寄って下され、ほろ酔い気分で鶴舞に帰つて行きましたよ。懐かしいですねー。



春日井梅鶯二代目を紹介する清水あき子 濱本町民館

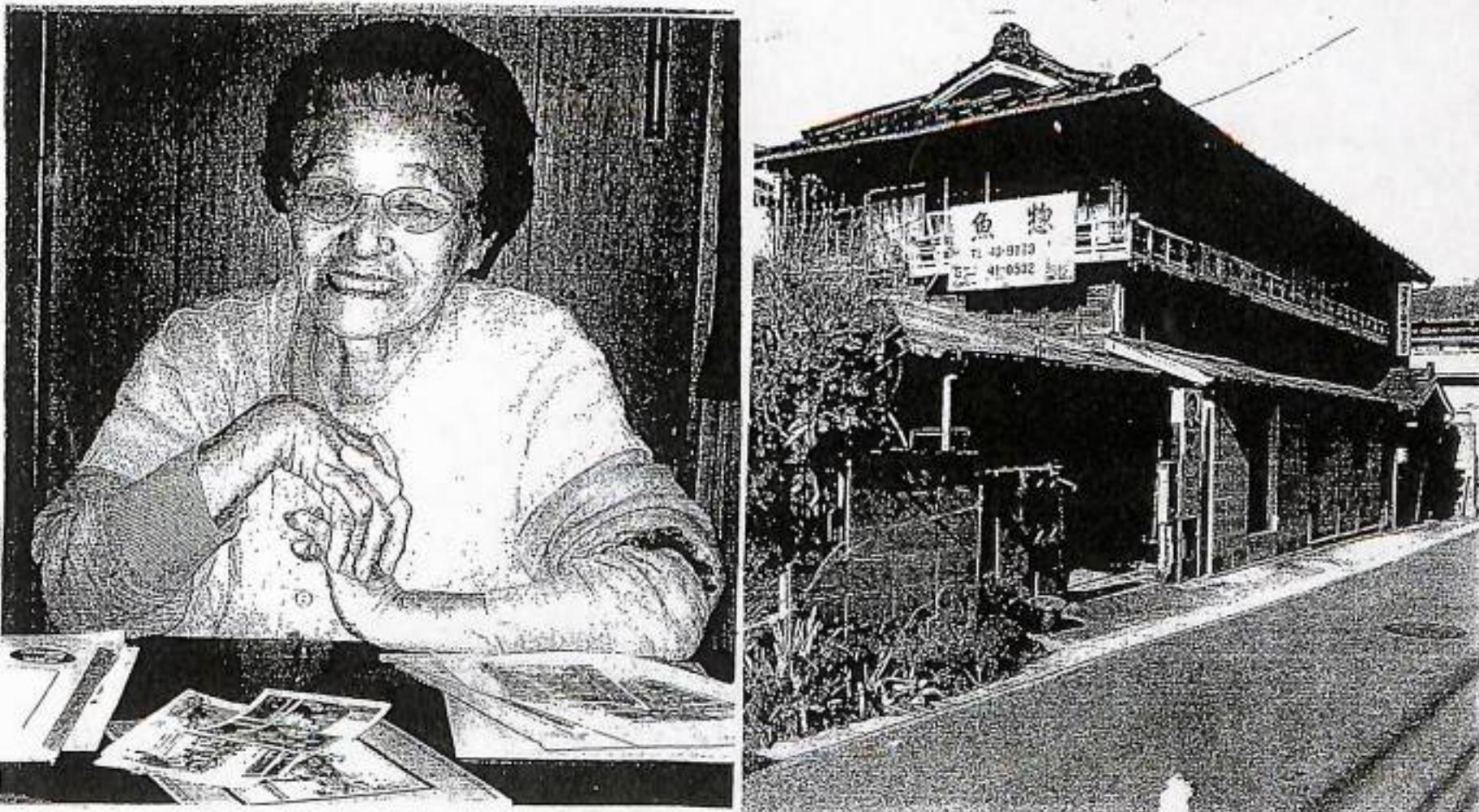


「梅鶯との想いで」を語る清水あき子さん

八幡史跡館からバソシタニュース オムニ
平成23年4月(1年前)インタビュー記録

日の前に海、富士のすそ野が広がり
遠く近く船が行き来する
まるで絵のような風景だった

「魚惣」の100年を清水あき子さんに聞く
インタビューした人=青木くに、朝倉久江



八幡の浜本町（はもと）地区、ほぼ中央あたりに風流な高欄とガラス戸で往時たたずまいを残す瀟洒な2階建てがある。元料亭だった「魚惣」、明治27年に創業、海側は築117年、陸側も大正3年の増築というからまもなく100年を迎える。かつて八幡が「海の町」だったころの磯料理料亭、八幡中学校グランド（現在運動公園）の岸壁から海に張り出すように浜1番の「海の家」を開設、最盛期は1日1000人を超える潮干狩りや海水浴客を迎えた。

昭和2年生まれの元女将・清水あき子さんの父・幸一さんはみんなが喜ぶのが大好きだった。村田英雄や二葉百合子、女剣劇の浅香光代を呼んで興行を張つたりもした。町に海があつた時代を知る人たちにまっさきに思い出す店を尋ねると「魚惣」と答える人も多い。かつて「海の町」の一時代を築いた「魚惣」の歴史をあき子さんに聞いた。

明治27年に竣工、117年の年輪を刻んだ「魚惣」

— ずいぶん丈夫な造りですが？ — 西側の半分が初代惣三郎が明治に建った部分。いま勝手口に使つてる所に長屋門があつて庭石伝いに玄関に入つたそうです。千葉側が別棟の調理場で、「上総

131年前
110年

「堀り」の井戸があった。大正3年に敷地いっぱいに店を広げて現在の形になるのですが、その時井戸も建物の中に作り込んで、いまでも2階の廊下に井戸浚いのための仕掛けが残っています。

○昔は八幡港のみおが店のま裏まで入り込んでいた。開店のころは八幡が市原の中心地でね、鶴舞とか市原の内陸の方から米や薪とかが集まつた。それを五大力船に積み込んで東京に運ぶのですが、その辺りは船乗りや運送関係の人たちで賑わつたそうです。船は大正時代ころから自動車や鉄道の発達でだんだん寂れてく

わったそうです。船遊びが東京のお客さんに評判となり、会社やお店の接待や従業員の慰安などに

利用されるようになつたそうです。

部屋からの景色は?

○そりやーすばらしかつたですね。2階座敷から座りながら海が見えた。部屋ごとに「張出し」といって、簡単なベランダ風の展望台が作つてあって、お客様は自由に入りして海を眺めたり、夕涼みが楽しめた。目の前いっぱいに海、大きき富士山のすそ野が広がり、左手から五井鼻が浦を作つていて、遠く近く船が行き来して、いまの人たちにはとても想像出来ないでしょう。まるで絵のような風景でしたね。

○まだでコチやヒラメ、カレイ料理はお造りとてんぶらが人気

○すだけでは、コチやヒラメ、カレイ、スズキ、セイゴといつたところでしょうか、たまに黒ダイなんかもあつた。採れた魚は全部お客様のもの。船の上で料理して宴会、飲んで食べて残りの魚はおみやげになつた。人気料理はお造りとてんぶらだった。なにしろ新鮮。お客様が「おいしい、おいしい」と喜んでくれましたね。

○大正6年に大嵐がきて、このあたりも床上1mほど浸水、家の前の道に船が通

すだけでも楽しそうですね

○まだで、コチやヒラメ、カレイ、スズキ、セイゴといつたところでしょうか、たまに黒ダイなんかもあつた。採れた魚

は全部お客様のもの。船の上で料理して宴会、飲んで食べて残りの魚はおみやげになつた。人気料理はお造りとてんぶらだった。なにしろ新鮮。お客様が「おいしい、おいしい」と喜んでくれましたね。

○海の家のきっかけは?

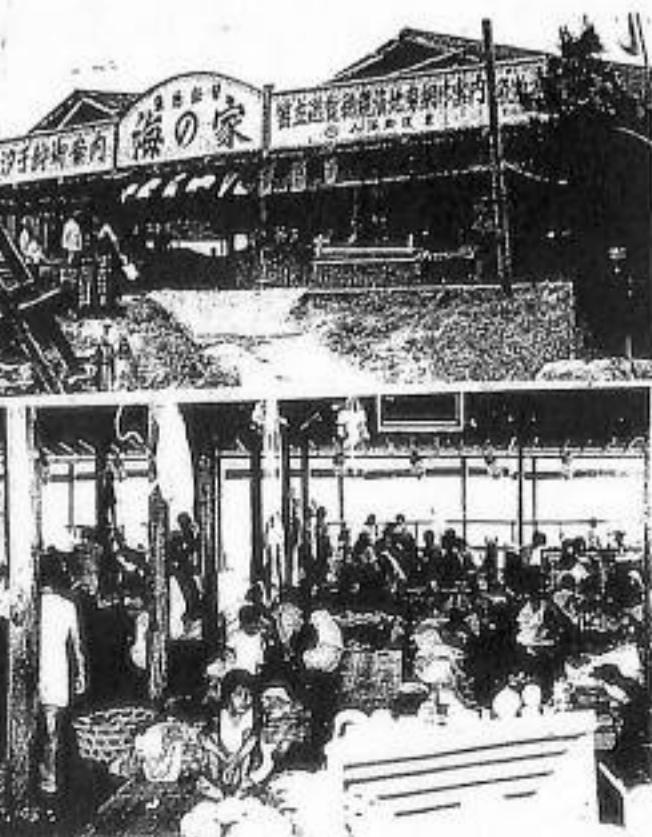
○海の家では食堂も?

○バスで東京からくる小学校や中学校の生徒は弁当持参で、一般の人たちは海の家を利用した。メニューは親子丢とかあさりめし、サンガメしが中心で、ラーメンやカレーはやらなかつたね。はじめは注文があると魚惣の料理屋の方で作つて運んでいたんだけど、大変だというので、そのうちに海の家に炭こんろをおいて調理するようになつた。売り上げは天井からぶら下げたカゴがレジ変わり、まだ100円札もない時代だから10円札と1円札、あとはコインばかり、すぐ一杯になつた。

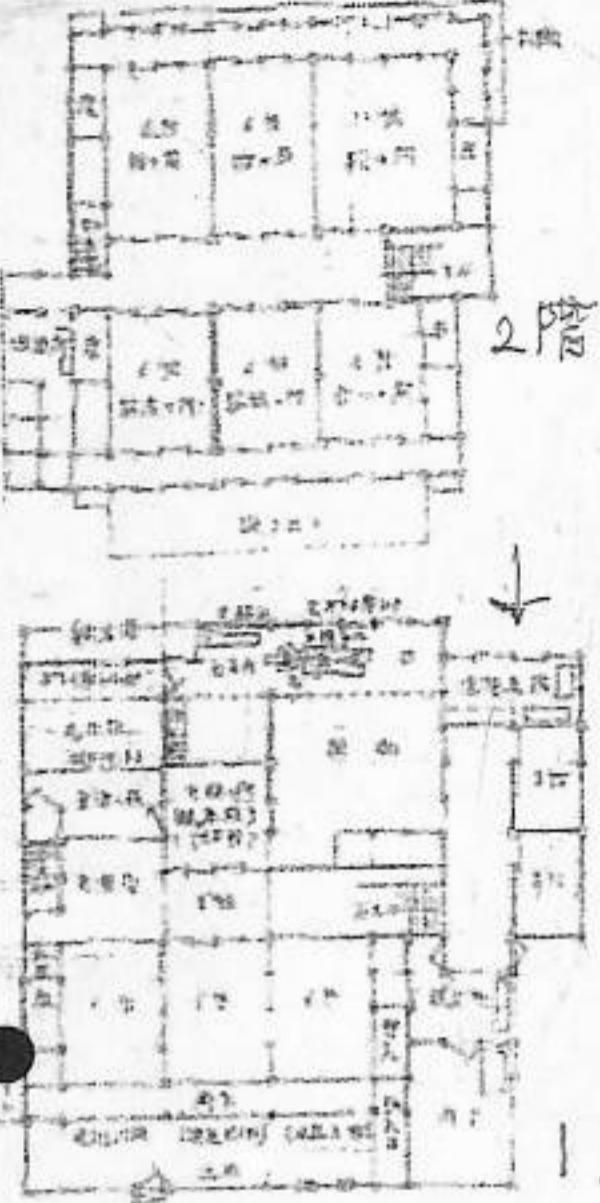
○昭和32年に漁業権を放棄して海岸の埋め立てが始まるわけですが?

○話があつた時、そりやーショックでしたね。八幡から海がなくなるなんて今まで考えたこともなかつた。年寄りは絶対反対、海は先祖から受け継いだ大切な恵みだつて。でも、当時の八幡はのりの養殖に頼つて生活している。ところが海に油が流れ込んでだめになるなんてこともあつて、若いたちは将来の生活に不安をつけていたんですね。これも時代の流れかつて、わざかばかりの保証金を貰つたんですよ。

○魚惣一世紀にわたるお店の歴史を閉じることになる



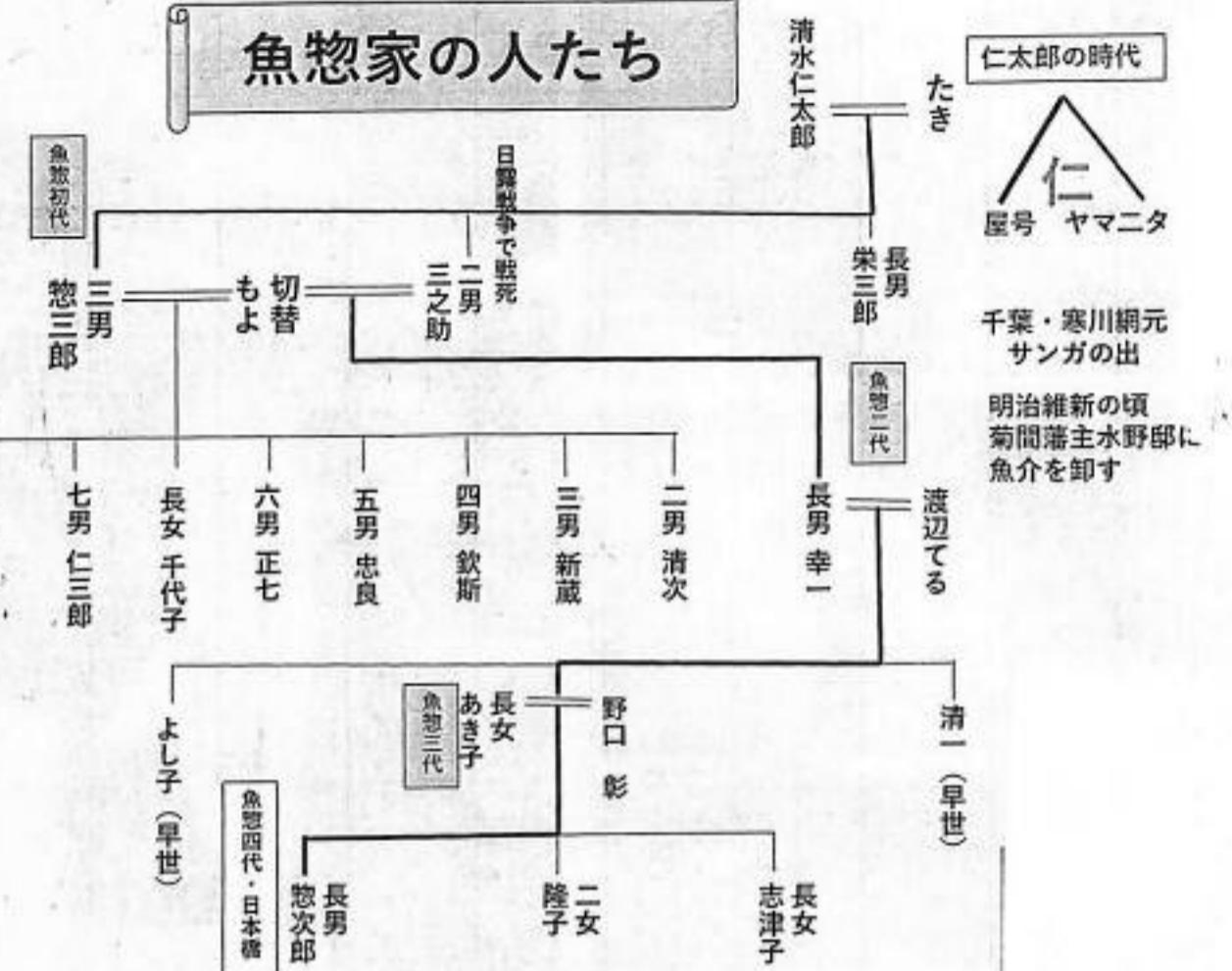
魚惣海の家



○魚惣一世紀にわたるお店の歴史を閉じることになる

完

魚惣の人たち



海が盛んだった戦前の魚惣とすだて

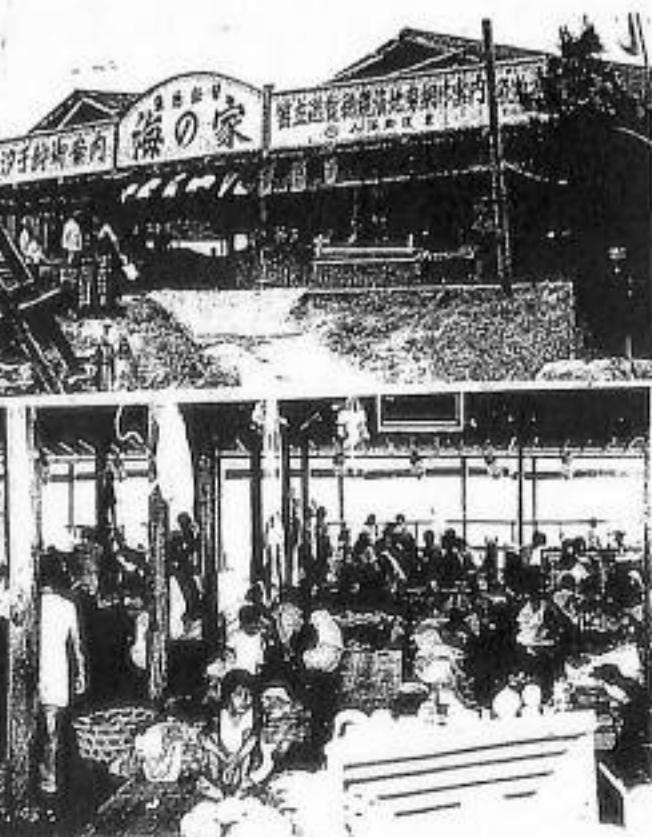


○まだで、コチやヒラメ、カレイ料理はお造りとてんぶらが人気

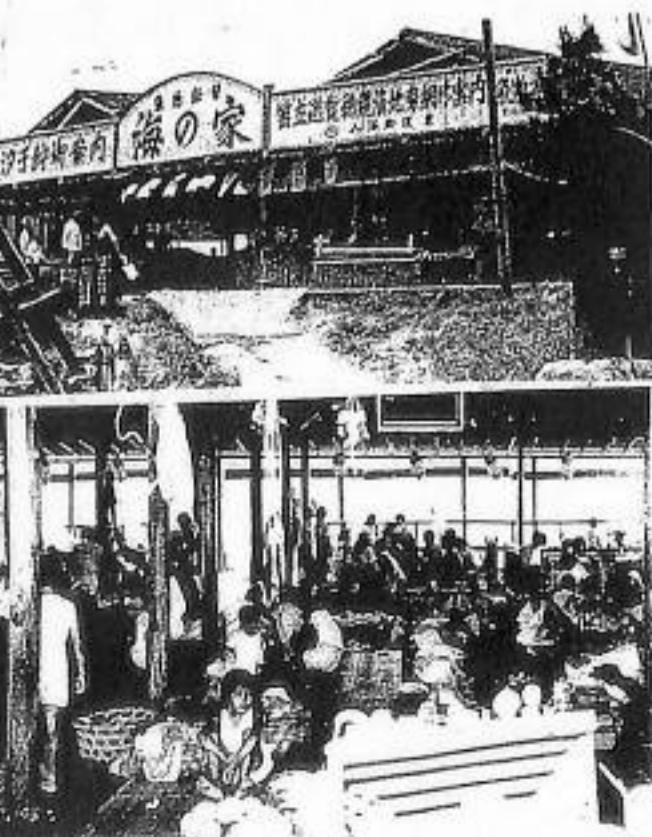
○私は昭和24年に結婚して、26年に駅前で廃業していった「八幡ホテル」が流され、廃業することになつた。このころ海に大勢のお客さんを呼ぶことができないかつて考えていた2代目がその権利を譲つてもらつて「納涼台」を始めたんです。それが戦後になつて「海の家」になります。

○戦前からですね。何回か皇族のお子さんたちも潮干狩りで八幡海岸にいらつしやつて、「魚惣」の納涼台も着替えや休憩に利用された。宮様が使つた足袋を洗つて取つてあつたが、いくら探しても出てこない。多分何かに混じつて処分しちつたんでしょうね。(笑)

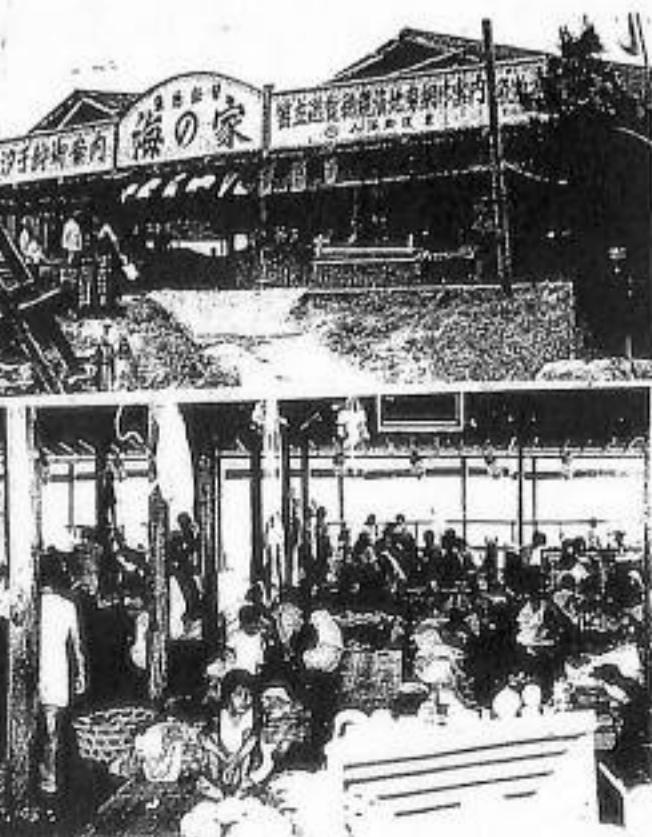
○戦後は?



○いまはむすこが築地で魚惣のノレンを守つてくれています。ここは私が生まれ育つた大切な家、手を掛けるのも大変だし、思い出もいっぱいです。回りから「店が忙しいからそつちはやめて夫婦で帰つてこい」ということになつた。5月ごろからシーズンが始まり夏になると客が1日に1000人を超えることもある。何しろすごく忙しい。氷水とかサイダー、すいか、とうもろこしなんかが飛ぶようになります。朝の6時から準備がはじまり、夜も海の家で泊まる。ろくに眠れないなんて日も続いたけど、何しろ若かった、当時は少しも辛いなんて思わないかったね。

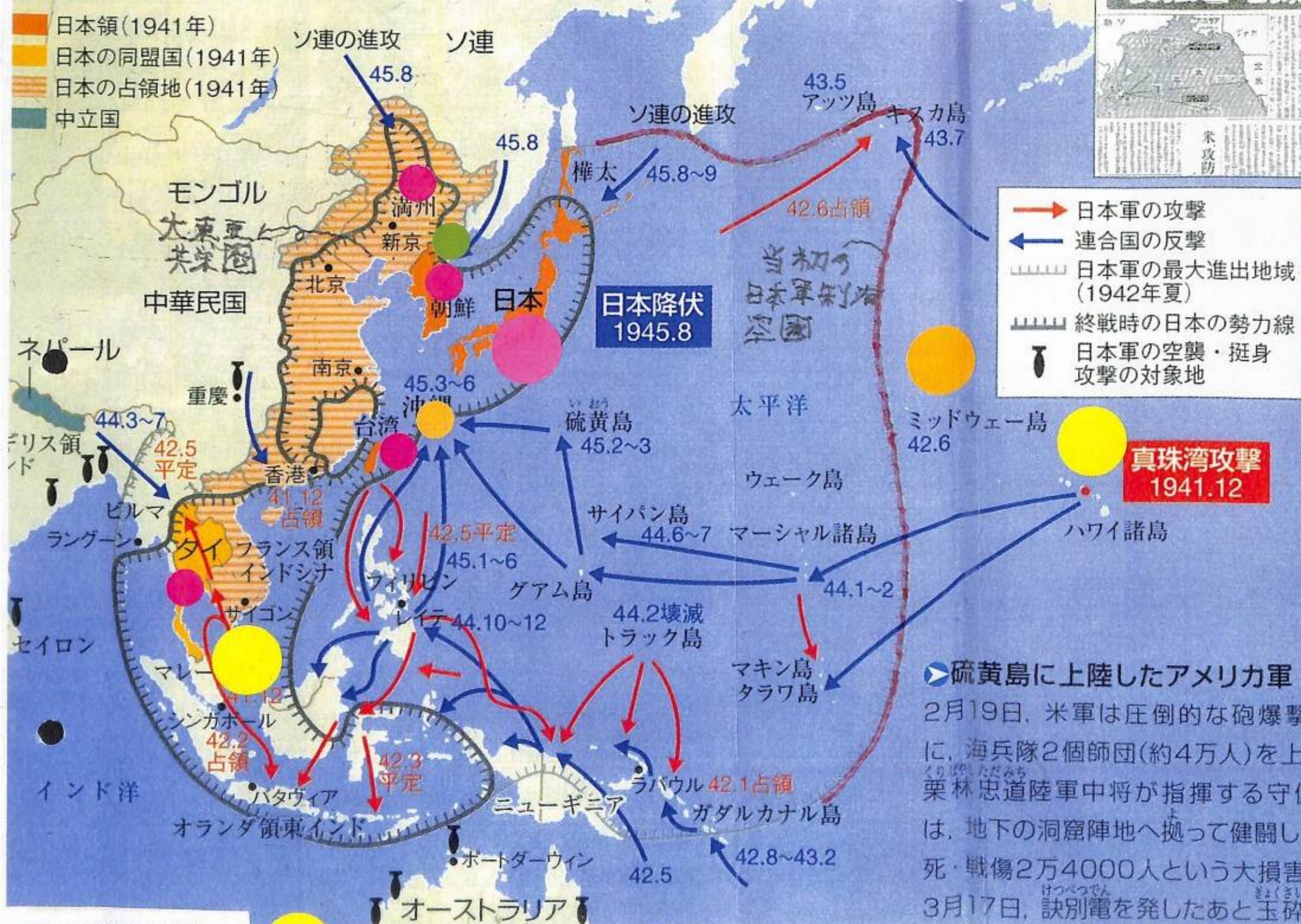


○いまはむすこが築地で魚惣のノレンを守つてくれています。ここは私が生まれ育つた大切な家、手を掛けるのも大変だし、思い出もいっぱいです。回りから「建て替えたらどうもね。私の日の黒いうちはこのままにしておきたいの。初代や父、亡くなつた主人の夢がいっぱい詰まつたこの家は私にとつてかけがえのない宝物なのです。」



○きょうはどうもありがとうございました。

4 戦局の変化 4-① 太平洋戦争戦局地図



東太平洋を根拠地とする敵を襲撃する

ミッドウェー沖に大海戦
アリューシャン列島猛攻
陸軍部隊も協力要所を奪取
わが二空母一巡艦に損害
米空母二隻
スミソナリ・ミッドウェー島攻撃沈

太平洋の戦局此一戦に決す



▲山本五十六
(1884~1943)

日米開戦には反対であったが、日本海軍の連合艦隊司令長官として、真珠湾攻撃やミッドウェー海戦を指揮した。山本五十六は日本海軍のシンボルであったが、南太平洋ブーゲンビル島上空で戦死した。

ミッドウェー海戦を報じる新聞記事(『朝日新聞』)

1942年6月11日 1942年6月5日におこなわれたミッドウェー海戦で、日本海軍の機動部隊は空母4隻を失う大敗を喫した。



▲硫黄島に上陸したアメリカ軍 1945年2月19日、米軍は圧倒的な砲爆撃の援護下に、海兵隊2個師団(約4万人)を上陸させた。栗林忠道陸軍中将が指揮する守備軍約2万は、地下の洞窟陣地へ拠って健闘し、米軍に戦死・戦傷2万4000人という大損害を与えた。3月17日、訃別電を発したあと玉碎。

5 太平洋戦争の勃発

●真珠湾(パール・ハーバー)攻撃 1941年12月8日早朝、日本軍によるマレー半島コタバル上陸、ハワイの真珠湾攻撃から太平洋戦争が開始された。オアフ島真珠湾に在泊していた米太平洋艦隊の艦船9隻のうち、5隻が沈没、2隻が中大破した。空母3隻は出動中であった。



▲マレー沖海戦 1941年12月10日、イギリス東洋艦隊の主力艦船「プリンス・オブ・ウェールズ」と「レバーブル」は、日本艦隊と輸送船を攻撃するために北上中、日本海軍航空隊により撃沈された。

リセマキは洋上戦艦	
主砲	140mm
副砲	100mm
魚雷	12枚
機銃	12挺

●ハワイ・マレー沖海戦を報じる新聞記事(『朝日新聞』1941年12月9日) 1941年12月にハワイを攻撃して太平洋の制海権を得た。マレー沖海戦では、英海軍を圧迫し、香港を奪って、マレー半島・ルソン島に上陸。1942年2月にはシンガポールを占領し、予定通りの国防網を築いた。

「詳説日本大戦史」高校日本文庫読本(山川出版社)

3-2 拡大する戦力差

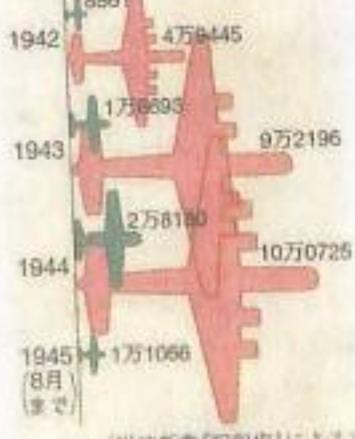
航空機生産の比較(1941~44)

(単位:機)

アメリカ

日本

1945年は日本のみ



佐倉歩兵57連隊の終戦

明治38 12 昭和12 18 19 20年

創立
佐倉移転

満洲國駐屯

佐倉連隊支遣

満洲癡首隊ソ連参戦進攻
オ3大隊ミグアム島に派是 玉碎
主力をレイテ島で戦うが ほぼ全滅
セブ島を本拠地に戦勝中 終戦
(最後の連隊長 宮内良夫大佐)
一部を沖縄に抽出 玉碎
一部を台湾に抽出

ソ連
ソビエト
ソビエト連邦
スンナリ
ソ連

終りに

- ①軍部の大陸進出に始まった「日中戦争」は、米国との「太平洋戦争」に発展。
- ②緒戦は「真珠湾」を奇襲して優位に立ったが、間もなく形勢は逆転、圧倒的な国力の違いを見せつけられた。
- ③昭和20年、「東京大空襲」「沖縄戦争」「広島、長崎への原子爆弾投下」に及んで、昭和天皇は軍部の「本土決戦」を制して、「ポツダム宣言」の受諾を英断、8月15日「終戦の詔」がラジオを通じて発表された。
- ④「沖縄戦争」を学んで、もし軍部のいう「本土決戦」が実現していたらとするとそら恐ろしい。再び戦争を起こしてはならないとの思いをあらたにした。

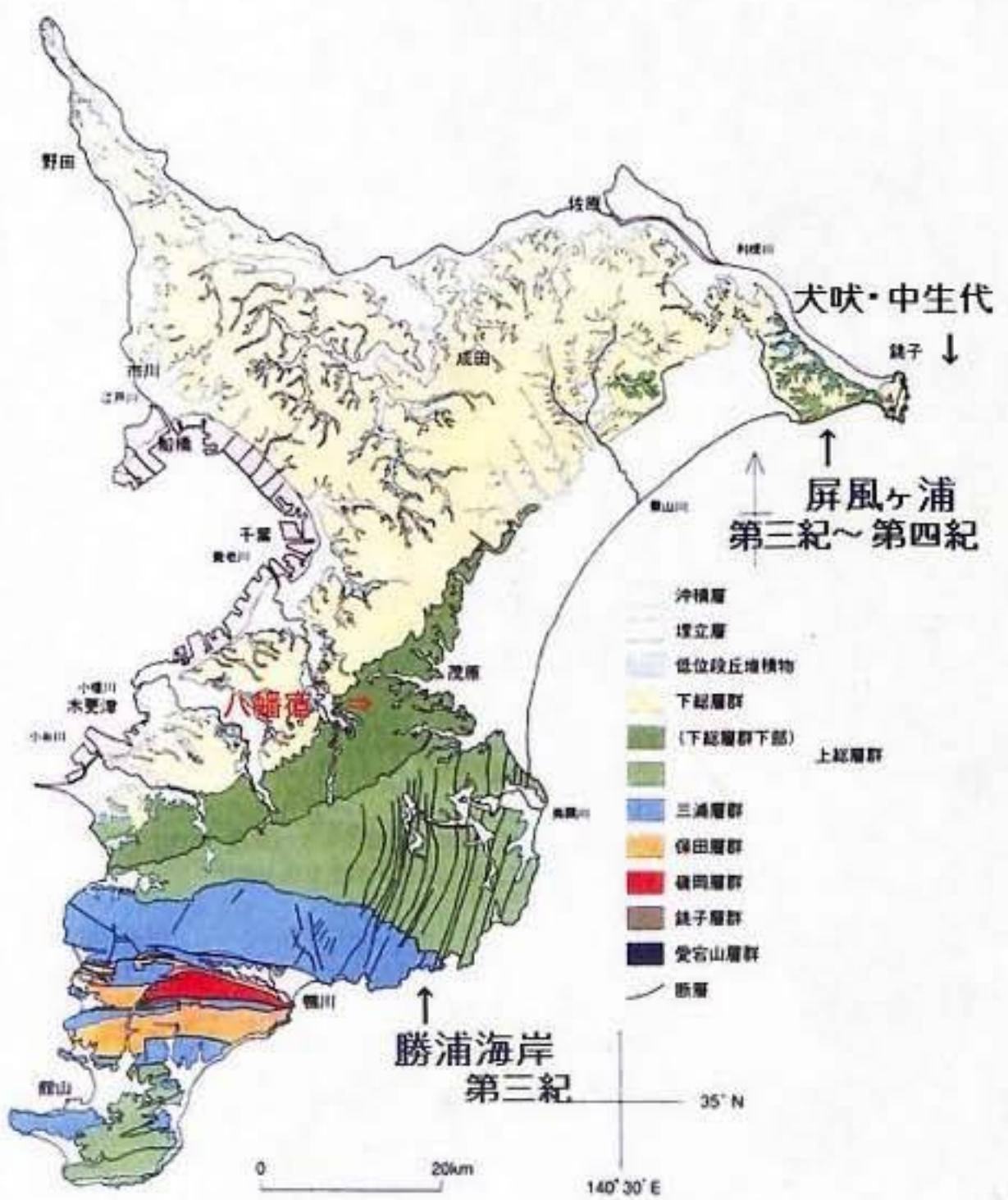
戦死者名簿に硫黄島はとあります。
これはか多く交戻が想定される

八幡の地理学

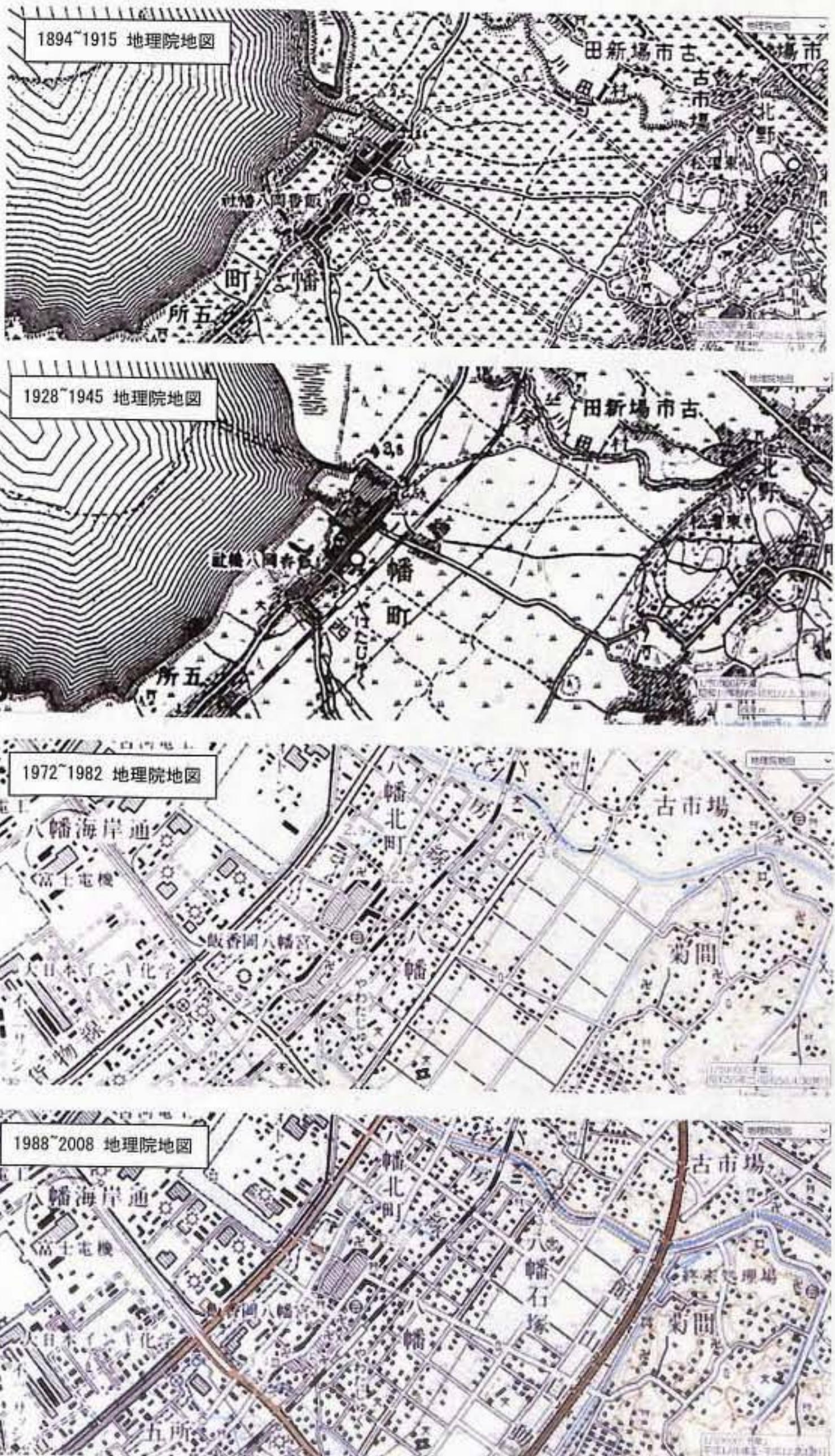
清和大学 特任教授 小関 勇次

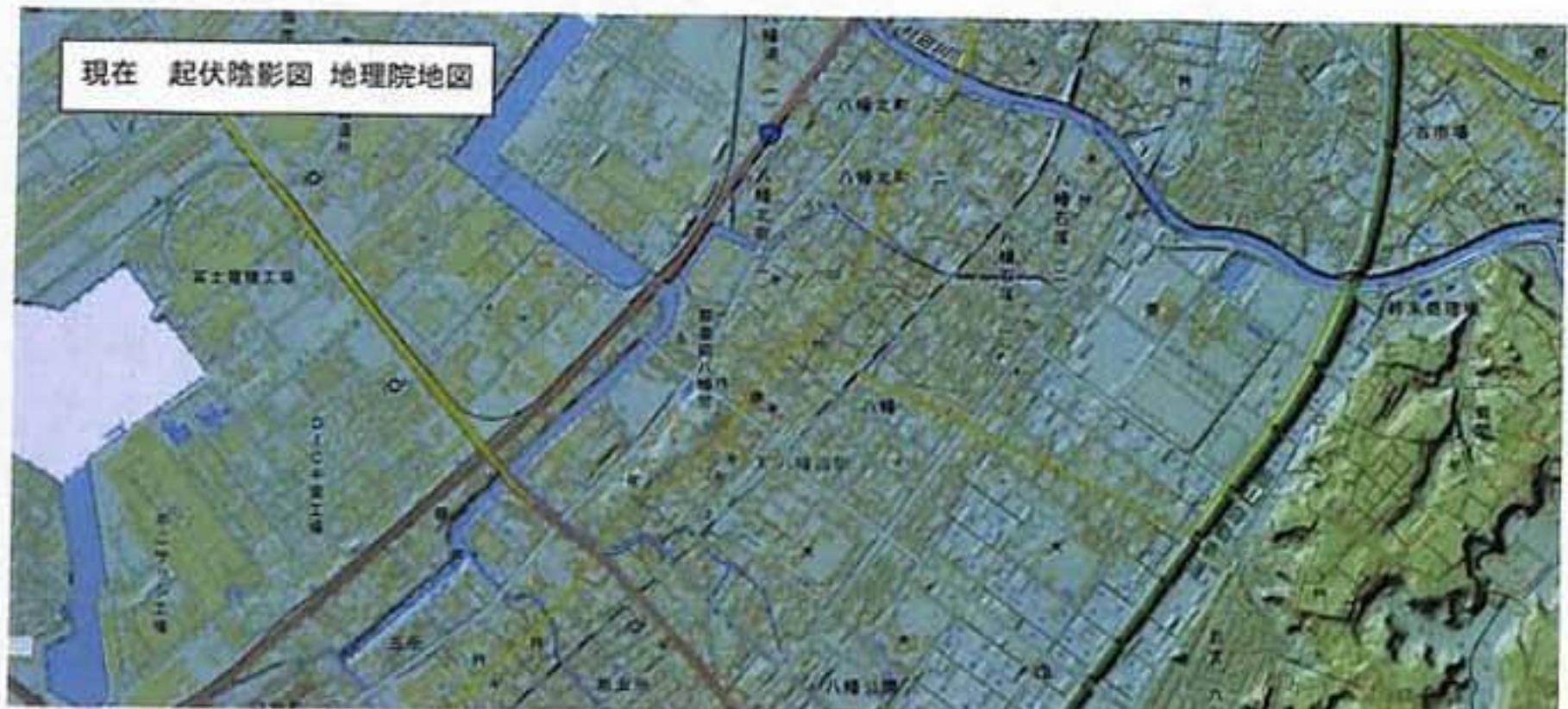
1 地質・地形環境から見た八幡宿

下の地図は千葉県の地質構造を表しています。八幡宿は東京湾岸がピンク色ですから埋め立て地（人工造成地）をしめていますが、沿岸付近は白ですから沖積地となります。ですから八幡宿は沖積地という低地に位置しています。沖積地というのは流水の作用で形成された低地ですが、縄文海進といつて6000年～7000年かけて干上がっていった低地です。海岸部には砂堆（砂丘までいかない風成砂の堆積による微高地）が海岸に面して列状に形成され、この砂堆の上に八幡宿・五井・姉ヶ崎があります。内房線もこの砂堆上を通過しています。千葉県全体で見ると東京湾に向かって盆地状の傾きをしていることがわかります。ですから、養老川・小櫃川・小糸川などの河川はすべて東京湾に流れ込んでいます。

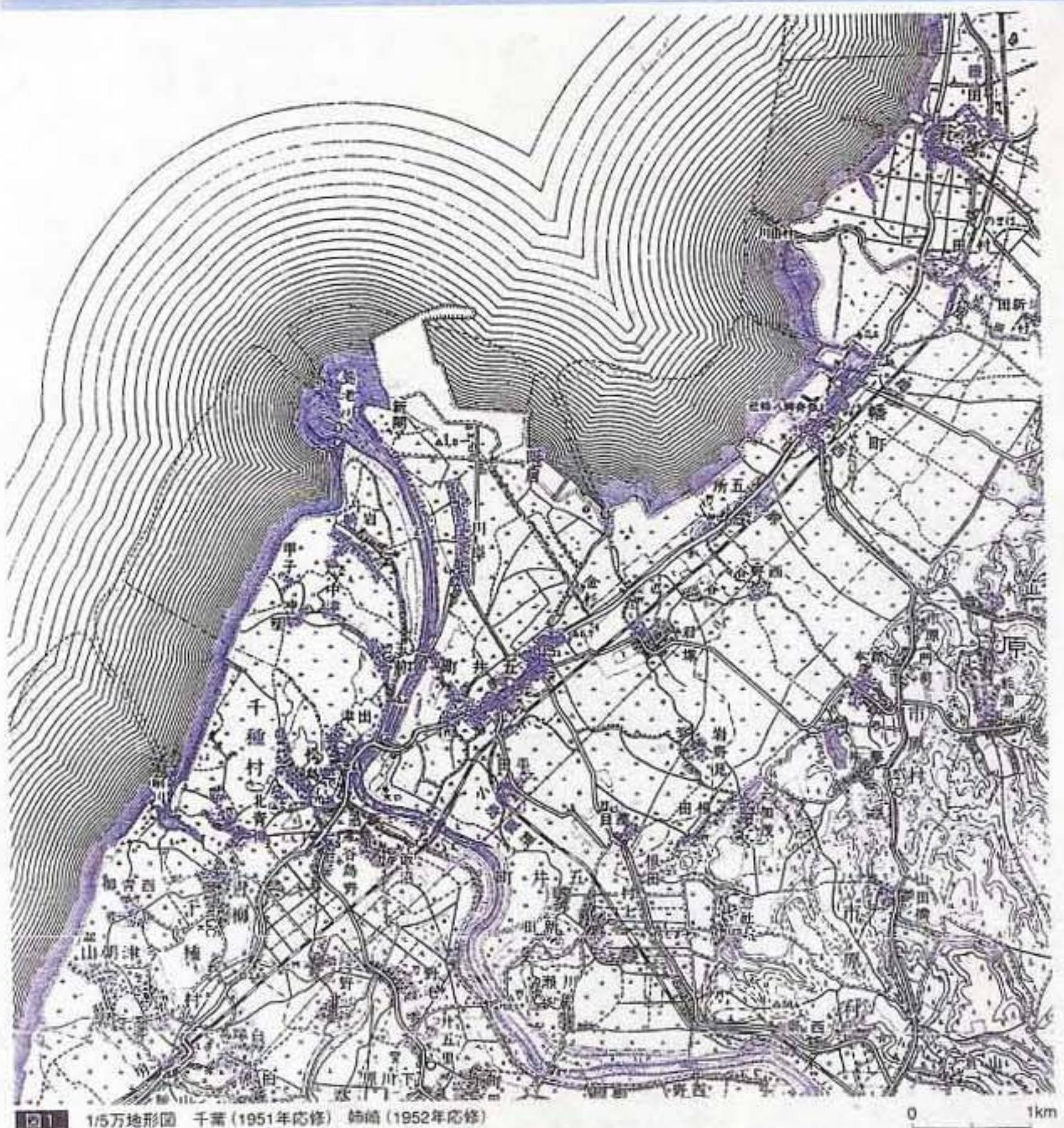


2 地図でたどる八幡宿





埋め立て前の八幡宿 (1951頃)



養老川三角州 JR内房線五井駅を中心とする地域は、今日の市原市の中心をなす地域であり、過去40年間で最も大きく変容した地域である。地形的には、養老川の下流部にあたり、市原台地と袖ヶ浦台地、その間の養老川低地、八幡や姉崎の砂州と海岸平野などからなっている。そのうち本来の養老川低地は、その河口を頂点として東京湾に突出した三角洲低地であり、海岸線には干潟が広がっていた。この三角洲低地の自然の姿は図1に描かれており、この地形図に示されている自然と人文の

諸現象が、昭和20年代までのこの地域の原風景であった。

市原の原風景 その風景を一言で言えば、水田の広がる農村であり、海岸地帯は半農半漁の村々であった。台地では薪炭・竹・豆類・麦などが生産され、低地の主要部は米、自然堤防や砂州の微高地では桑やタバコやナシなどが栽培されていた。海岸地帯では貝・ノリの養殖が盛んであり、特に青柳産のバカ貝は「アオヤギ」の美称で通るほどよく知られていた。明治期には、河口近くの干潟に塩田が開かれていた。国分寺台(市原台地)には、

京葉工業地帯の八宿（1972年頃）

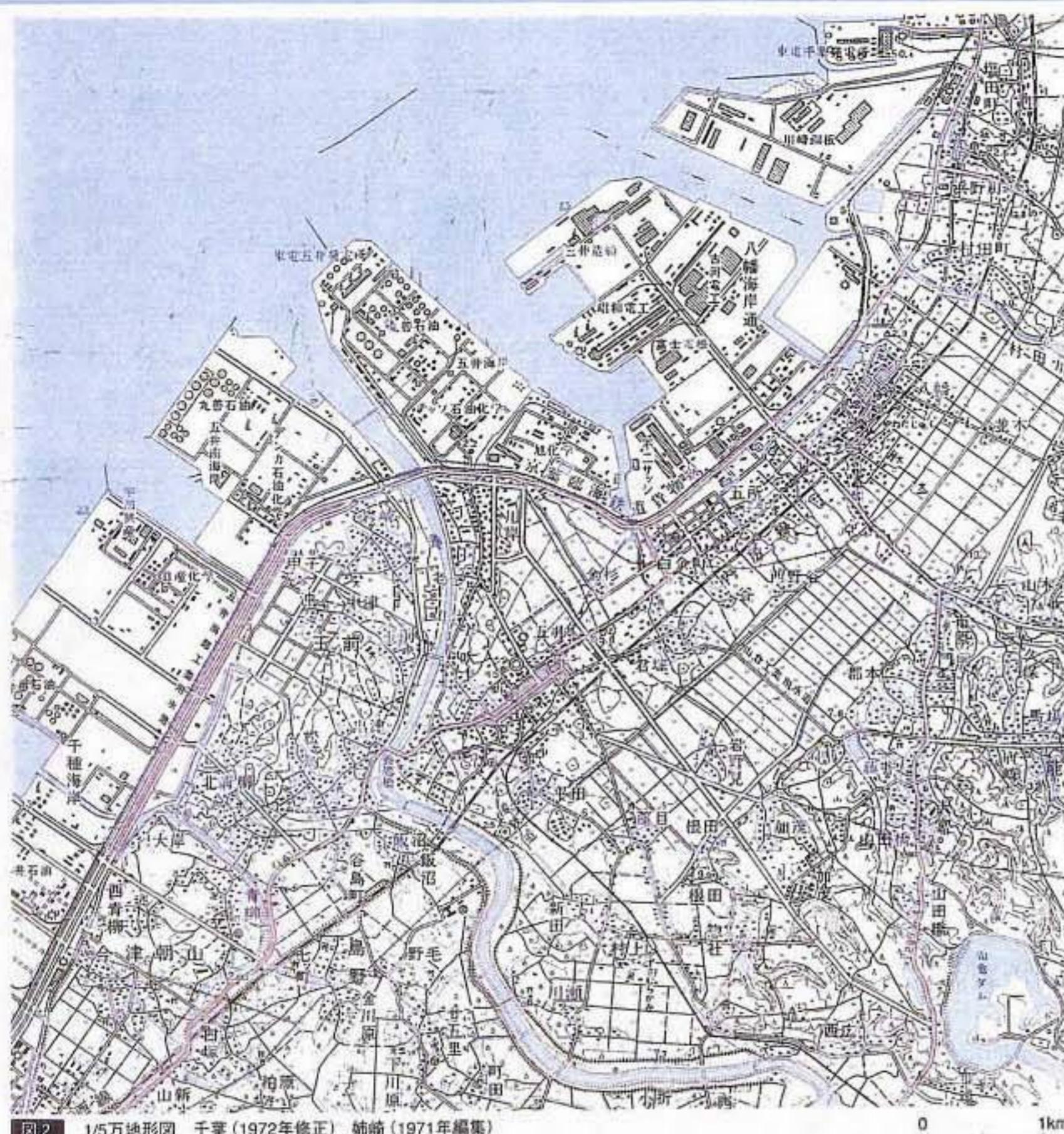


図2 1/5万地形図 千葉(1972年修正) 姉崎(1971年編集)

上総国分寺の存在は知られてはいたが、まとまった集落ではなく、畑と林地の広がる土地であり、姉崎方面も同様であった。千葉街道に沿って八幡宿・五井などの集落があり、これらは砂州の上に位置している。鉄道は1912(明治45)年に現在のJR内房線が、これらの集落を連ねて木更津まで開通した。1925(大正14)年には小湊鉄道の五井～里見間が開通し、養老川流域の人や物資の移動に大きな役割を果たした。五井はその拠点となっていたが、駅前集落の域を出るものではなかった。

臨海工業地帯の形成 京葉臨海工業地帯の形成により、この地域は工業化と都市化の波に洗われることになり、著しい地域変容を遂げることになった。千葉県は1958(昭和33)年に京葉工業地帯造成計画を立案し、本格的に東京湾岸の開発を進めることになった。1963年に市原・五井・姉崎・市津・三和の5町が合併し、市原市となって市制を施行した。さらに、1967年には南総町・加茂村を合併して県下最大の広域市となり、行政の体制を整えた。当初の造成計画では、浦安地区から五井・市

21世紀を迎えた八幡宿（2000年頃）

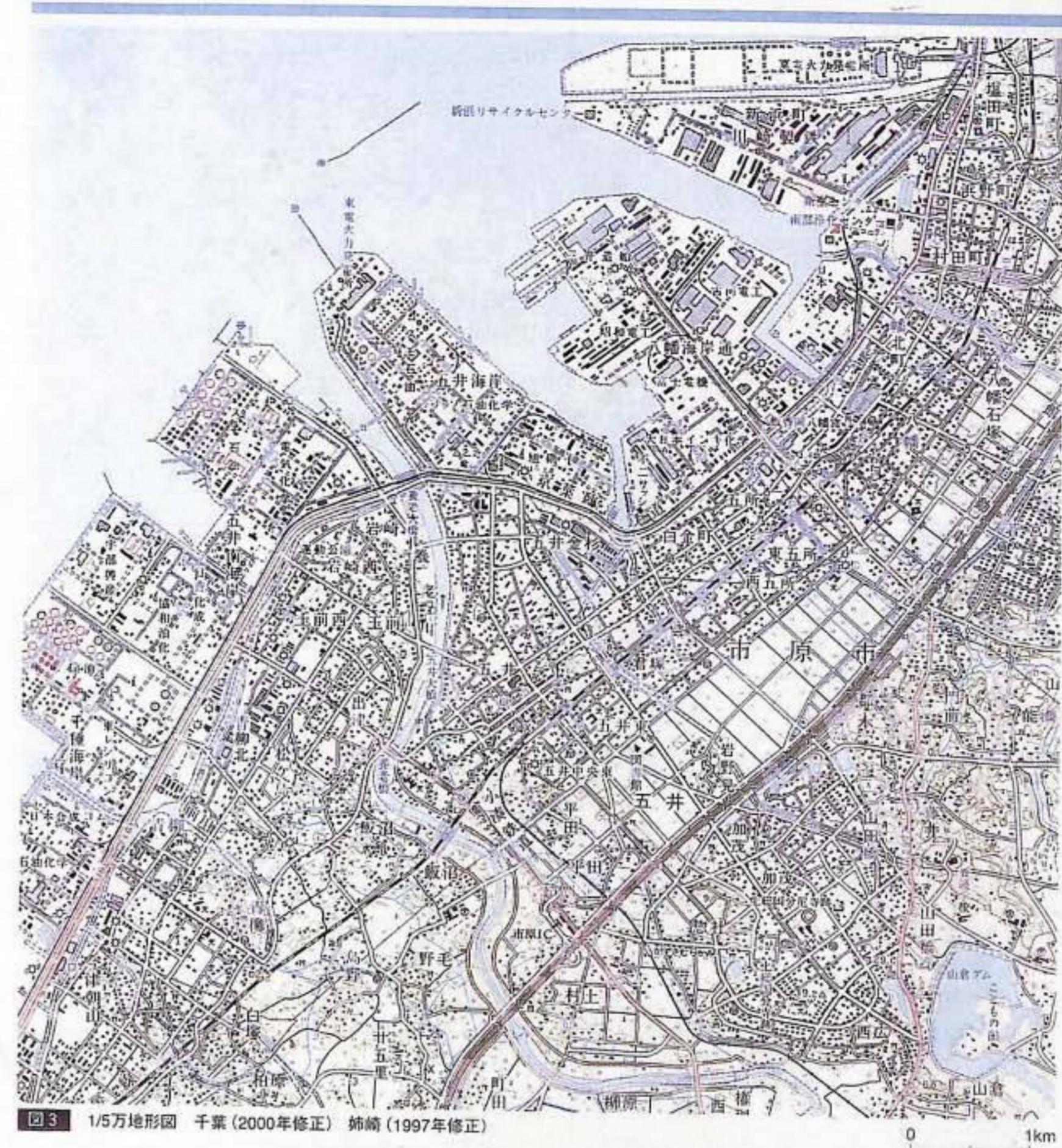


図3 1/5万地形図 千葉(2000年修正) 姉崎(1997年修正)

原地区までを対象としていた。しかし、翌年の京葉臨海工業地帯造成計画では範囲が拡大され、五井・姉崎地区もこれに組み込まれている。

五井・市原地区(1957～68年)では714haが造成され、そのうち今日の八幡海岸通りには、三井造船・昭和电工・古河電工・富士電機などの多種類の工場が進出した。また、五井海岸には丸善石油(現コスモ石油)関連の工場群などが立地し、東京電力五井火力発電所も進出した。1962～73年にかけて、五井・姉崎地区では1,468ha

の干潟埋立工事が進められ、海岸線は2kmも遠くなり、工業用地は直線で区切られた専用の泊地を持った櫛形状のものに変わった。ここには、出光興産と出光石油化学など4つの石油化学コンビナートが造られ、姉崎の巨大火力発電所(360万kW)も立地して、京葉臨海工業地帯の中核を形成した。これら工場群へは京葉臨海鉄道貨物線が引き込まれ、工業用水道も造られている。従来の千葉街道に平行して高規格の国道16号が整備された。

3 姉ヶ崎・五井・八幡宿の違い

内房線には八幡宿・五井・姉ヶ崎と東京湾岸に三つ並んでいます。すべて東京湾岸にあって埋め立て事業により京葉工業地域が形成されました。他県の人から見たらどこの街も同じでしょう。ところが市原市民はすべての街は同じと思いませんね。その違いを見つけてみましょう。このような街の機能や形態の違いを見いだすこと、「地域性」が地理学ではとても重要な研究の一つです。

(1) 小湊参詣で賑わった宿場町八幡

表紙の小湊参詣道順略記の表紙絵には五大力船が描かれ、水運で栄えた八幡宿の様子がわかります。ですから水運業で栄えた港町としての機能も持っています。また、古くから飯香岡八幡宮は市原郡の總社にあたり参詣客も多いために房総往還沿いには旅籠（宿泊施設を持った宿）がたくさんありました。地名の八幡宿の「宿」は宿場を意味します。全国的に見ても～宿は宿場町なのです。ですから表紙絵の旅人が往来しているのは、江戸時代から宿泊施設や商業施設が連なる街として発展していたからです。

すると八幡宿は漁業や農業よりも商業的機能が中心であったこともわかります。ただ、宿場町は房総往還に面した旧16号沿いに限ります。海辺では宿泊客に提供する鮮度の高い魚介類が中心となり、穴子・ギンボ・シャコ・ハマグリ・海苔といった付加価値の高い漁業に特色がありました。九十九里のように網でイワシを大量に捕獲するような漁業ではありません。また、五所海岸から養老川右岸にかけては塩田も盛んに行われました。この塩田は姉ヶ崎で行われたいたような揚げ浜式塩田ではなく、入浜式塩田といわれます。当時では大規模で近代的な製塩方法でした。

八幡宿はこれらの海産物を五大力船や押送船で江戸に運びました。また、内陸部や房総海岸から運ばれてくる年貢米の中継基地となり、江戸まで9里、年貢米を運びました。浜本地区では五大力船の船問屋の拠点で年貢米を納める蔵が立ち並んでいました。しかし、幕府の街道保護政策で一般の人たちは八幡と江戸の海路による直接往復は認められなかったため、徒歩で江戸を往復しました。このため八幡宿は宿場で潮干狩りなどを楽しむ観光地として知られるようになりました。

(2) 河岸場として発展した五井

五井の歴史では「河岸」というのは河川交通の港を指します。これに対して、海運の港は「津」といいます。五井にも五井河岸という地名がありますが、養老川が東京湾に注ぐ場所として河川交通ではターミナルにあたる重要な場所です。五井河岸に石材店（中西石材店や高石石材店）や材木商（司木材や佐川材木店）が集まるのは河岸場の特色です。五井は水陸交通の要に位置しており、古くから商業が栄えました。また、房総往還や久留里街道にも通じる交通のターミナルとしての機能がありました。養老川は今のように橋など架かっておりません。房総往還（江戸路）に飯沼の渡しがあったのみでした。

五井は現在でも「酉の市」が開催されますが、一昔前の「酉の市」は市原郡のみならず、遠方からも大勢の買い物客が訪れる名所として有名でした。年末に開催されたこの「酉の市」で道具類を買そろえて新しい年の準備をするのが慣わしでした。当然、交通機関がなかった時代ですから八幡宿と同じように宿泊施設を持った旅籠もありました。五井宿という地名はその名残です。

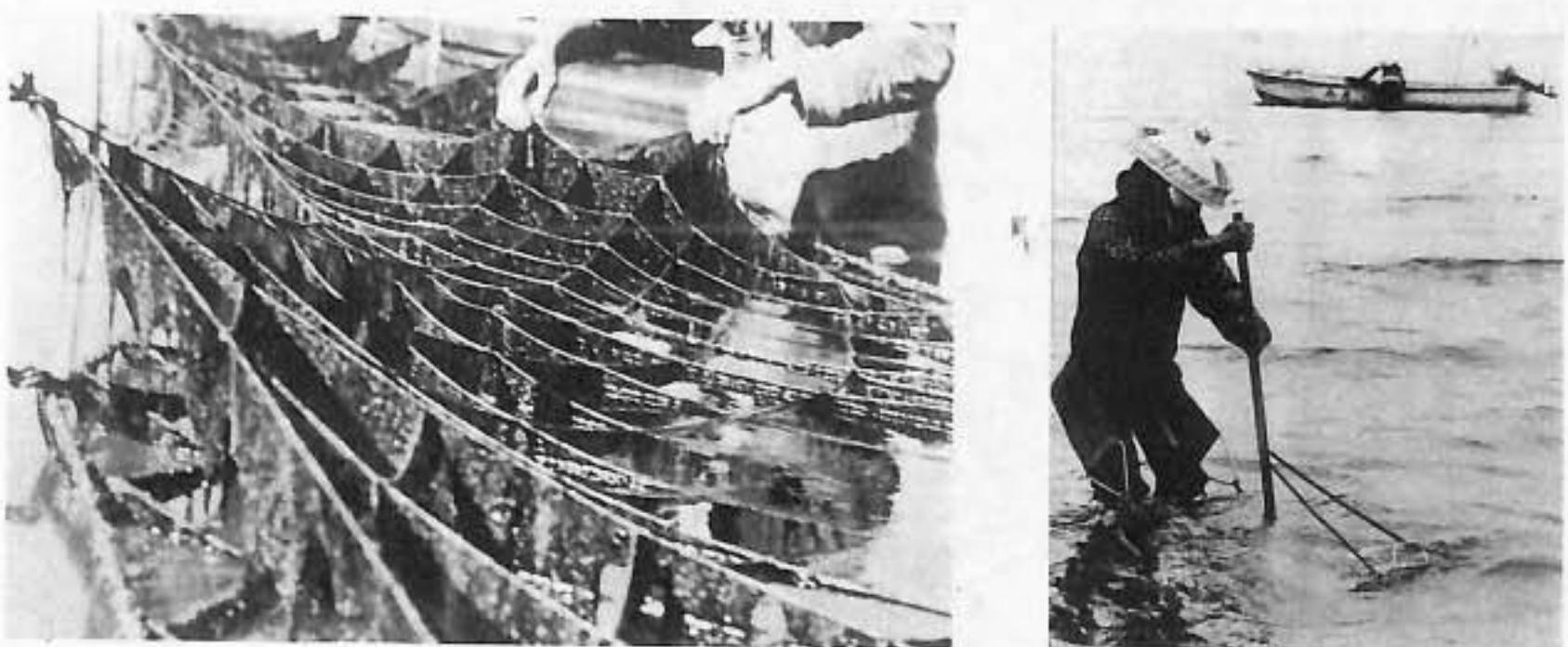
時を経て、五井更級地区は市原市出最大規模の商業施設の集積地です。今も昔も商業の中心地であることは偶然ではありません。

(3) 漁業に特化した姉ヶ崎

姉ヶ崎は半農半漁の第一次産業が中心の街です。それでも中世には椎津城が築かれ、近世にも鶴牧藩が置かれたりしたのは、久留里街道と房総往還が交わる交通の要であり、軍事上の要に位置していたからです。また、姉崎神社は延喜式（天皇の勅願するお宮）で格の高い上総五社の一つで、頼朝が武運長久を祈願した神社としても有名でした。

ところが一般の人々の暮らしは漁業が主、農業が従の半農半漁の寒村といってよい状況でした。しかし、採取漁業であった海の暮らしの一変したのは海苔の養殖が始まってからです。海苔養殖は付加価値が最も高い漁業であることは間違ありません。それは第一に換金率（利益）が最も高いことがあげられます。現代でも贈答品として需要が高いですが、当時は信州や上州の旅館で必需品でしたから女達は行商に出向いておりました。背負籠一杯くらいの海苔は初日で完売するため、旅館に滞在して海苔を送ってもらい行商を続けるのだそうです。旅館を泊まり歩いて一年分の稼ぎは十分にあったようです。第二には保存性が高く魚のように腐ることはありません。海苔箱に収納すれば半年はもちました。第三に天候に左右されることもなく安定生産ができました。

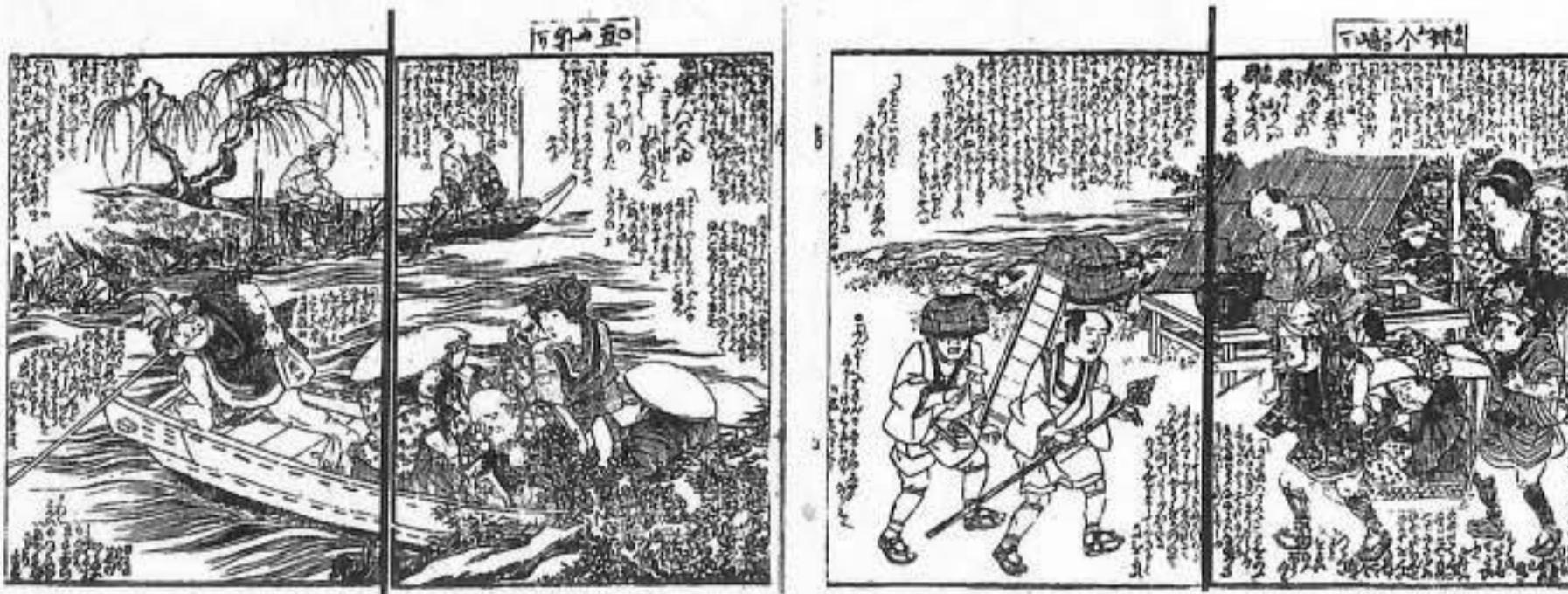
姉ヶ崎の人たちの豪快な気質は「海にお金が落ちている時代」のたまものと思われます。



写真左 姫ヶ崎、素手の海苔採り 舟板で手を叩いて暖をとる 右 マキ 貝類を捕る道具（今津）



十返舎一九『方言修行金草鞋』（むだしゅぎょうかねのわらじ）通称『小湊参詣道順略記』（1827年）絵：歌川国兼
大きな船は五大力船。旅人が描かれているが、八幡宿は小湊参詣で多くの旅人が訪れる観光地でもあった。



江戸時代の五井（左）と姉ヶ崎（右） 十返舎一九『小湊参詣道順略記』

おわりに

八幡宿は『房総道中記』の挿絵にもありますように、また、地名の通り房総往還の宿場町から発展した町でした。街の機能から見ると宿場を中心とした商業的機能と観光的機能をもった街といえます。飯香岡八幡宮はありますが、伊勢や琴平のような宗教都市としての全国的なビッグネームもありません。参詣客の収入によって成り立つ街ではありませんでした。

では八幡宿に暮らした先人達はどのように生計を立ててきたのでしょうか？

例えば、江戸時代、八幡宿は宿場（現在の商店街）以外の生業はまず農業、副業は浜に出てあさりや蛤を探って商い、と定められていました。しかし、養老川右岸の浜では外房のような量的な漁獲（イワシ漁など）は成立しません。ところが、養老川左岸の浜の出津・松ヶ島・青柳・今津などでは干満の差を活かした海苔の養殖に最適でしたし、カニ・エビ・シャコ・アサリ・アオヤギ・ハマグリなどの付加価値の高い魚貝類採取も盛んでした。八幡宿の遠浅の干潟になるような地形には大きなハンデキャップがありました。

そこで、塩田の開発により、姉ヶ崎と五井の漁業とは異なる製塩業に活路を見いだしましたし、商業的機能をいかして五大力船や押送船（おしゃくりぶね）で塩や海産物を江戸前に輸送する海運業も発展しました。時代が変わっても、遠浅の海を観光資源として湾岸一の賑わいをみせる街でした。八幡宿の人々の生業の変化に対応する適応力は素晴らしいと思います。このように、八幡宿は「いろいろな顔を持つ街」ですが、これは街の機能を時代とともに変化させてきたことを物語っています。

今回の講演会のテーマは「八幡の地理学」は郷土八幡について再認識できる機会となればと思います。ご清聴ありがとうございました。

令和6年10月8日(火)
令和6年度八幡公民館主催事業
「八幡史学館(第19シリーズ)」5回目
市原市立八幡公民館

市原市八幡近郊における漢文学の展開

東洋大学東洋学研究所客員研究員
辻井義輝

1. 岸本文曉

滞在期間...文化四年(一八〇七)～天保十五年(一八四四)、
上総八幡に滞在

資料

- ・「此君林文曉翁伝碑」(安政二年(一八五五)建立。飯香岡八幡宮現存)
- ・妙長寺墓碑(現存確認できず)

先行調査研究

- ・三上義夫「岸本文曉」『千葉文化』十、十一月号、第三卷第六号(通巻第二十五号)、千葉県中央図書館、昭和十六年(一九四一)十一月、一～五頁、国会図書館デジタルライプラリー
- ・川崎喜久男『筆子塚研究』多賀出版、一九九二、二七七頁
- ・八幡史学館名所一〇〇選チーム・八幡の石造物研究会『市原市八幡の石造物研究』(私家版、二〇一三)
- ・嘉津山清『御碑銘彫刻師 宮龜年』第一書房、二〇二〇年、一二一～一二三、五四〇頁

人物の概要

越中国新川郡東岩瀬の出身で、江戸に出て、書を蓮池堂、俳諧を玄武翁に学び、京都大阪を漫遊した後、文化四年(一八〇七)、東国に再来していたところ、大野錦羅子によつて南總八幡に招かれ、「翰墨を以て子弟に教授す」。弟子は三百人に及んだ。天保十五年(一八四四)四月二日死亡。



弟子

坂巻慎齋(大坪村)
盡日讀書送夕陽 醉花吟月富詞章
老來筆力龍蛇走 宜有名譽暉四方

岸本文曉を慕っていた人: 飯豊秋義

- ・天保四年(一八三三)～明治十三年(一八八〇)
- ・浜野村和泉屋利八の兄。米穀商、江戸貝殻町に支店をもつ。
- ・東條一堂(一七七八～一八五七。弘前藩儒)、大槻盤溪(一八〇一～一八七八。仙台藩儒)に師事。維新时期、清河八郎、安積五郎を一時自邸に匿ったという。東條一堂『繫辭答門』を共同で校訂。(以上鶴田惠吉『東條一堂伝』東條卯作刊行、一九五三、三二三～三二四頁)
凄涼林路遙礙斜 淚眼空臨舊講家
歲々秋光歲々恨 暮風吹過金燈花

2. 天羽南翁

滞在期間: 天保十四年(一八四三)～明治二年(一八六九)、村田村泉福寺の僧となり、学問を教える。明治十六年、還俗し、その後明治三十二年に没するまで、村田村泉福寺(?)で学問を教えていたらしい。

資料

- ・「南翁碑」(昭和十一年春建立。撰文は明治三十七年、江南藤崎由之助による。千葉市中央区村田神明神社現存)

先行調査研究

- ・鶴田惠吉『東條一堂伝』東條卯作刊行、一九五三、三〇七、三二四、三三七～三八頁
- ・大室晃「川上規矩」『市原人物譚』海潮社、一九八三、九八～九九頁
- ・川崎喜久男『筆子塚研究』多賀出版、一九九二、三一五～三一六頁
- ・川崎喜久男「藩校・私塾・寺子屋・算学塾」『千葉市教育史』史料編1、千葉市教育委員会、多賀出版、一九九七、四一～四三頁
- ・佐倉東雄「天羽南翁がこと」『市原市歴史と文化財シリーズ』第十六輯、平成二十三年度歴史散歩資料、石造物から探る郷土の歴史(その二)、市原市地方史研究連絡協議会、二〇一一
- ・八幡史学館名所一〇〇選チーム・八幡の石造物研究会『市原市八幡の石造物研究』(私家版、二〇一三)



人物の概要

天羽樂園、名謙、字大我、通称日謙、南翁、号仏谷、愛雨。文政二年（一八一九）、市原郡国吉村に天羽玄尚（医者）の四子として誕生。父の意向を受けて、文政八年（一八二五）、七歳、武射郡妙本寺に入り、日志につき、善勝寺某から経学や漢学を学ぶ。天保三年（一八三二年）、日志に伴い、浜野村本行寺に移る。天保六年（一八三五年）、日志が京都妙満寺主になるに伴い、同寺に移る（翌年まで）。この時、柏原正克から国学を学ぶ。天保十四年（一八四三）、村田村泉福寺の僧となり、学問を教える。この頃、南翁も勤王説を主唱する。安積五郎、清河八郎などの尊王志士を多く寺に匿った。慶応年間、浅草慶印寺の伽藍が新しく築かれ、落成式典が行われた際、幕府から式典の停止命令が出された。南翁はまたま江戸におり、時の執政にこの件につき意見書を出したところ、その命令は撤回された。明治二年（一八六九）、姉崎妙経寺主に就く。明治三年（一八六九）、各宗派の僧が協力して学舎を建てた際、学監に招聘される（すぐ辞職）。十六年（一八八三）還俗して村田村泉福寺（？）で学問を教える。明治三十二年（一八九九）十一月二十三日、死亡。

臨終にあたって、自分の遺骸を本堂前の人々の往来が激しい場所に埋めるよう命じた。人々がそこを通るたび、その罪穢れが濯がれることを願った⁽¹⁾。

人柄

琴碁書画詩歌俳諧みな得意。遺稿若干あり。

純真で、あっさりして物に拘らない性格。他人と関わる時も隔てを設けなかった。

大沼枕山、嶺田楓江、大竹石舟、大槻盤溪、市川漱村らと交流。

弟子・・・川上規矩、川上稻五郎、加藤久太郎、飯豊利一、永野善五郎、寺嶋久次郎、鎗田孫吉（鷗村）、白井禎次郎、川上房吉

作品（『東海新報』明治二十一年五月三十日）

和總生寛氏獄中之作
獄窗無拘憇豪魂 枕上祇應夢故園
記否去時花未發 如今春色不留痕

同

臥看山雲卷又舒 兮生早可托出廬
公邸未必無冤抑 法典還應有魯魚
月下獨吟橫幹藻 風前一醉樂琴書
村居別自饒幽趣 滿檻泉醞已熟初



3. 川上規矩

生没年・・・一八六一～一九三四

資料・・・「從六位勲七等川上南洞先生銅像記」（藤崎由之助撰。昭和十一年。飯香岡八幡宮内現存）、市原市教育センターなど。

調査研究

- ・「川上規矩」『房総人名辞書』千葉毎日新聞社、明治四十二年、一七五頁
- ・大室晃「川上規矩」『市原人物譚』海潮社、一九八三、九八～一二四頁

人物の概要（主に大室に拠る）

文久元年（一八六一）十二月八日生。

幼名沖五郎、のち規矩と改名。南洞、天名

地鎮庵秀真、秀真と号した。

父勘治郎は、字は子肅、珂石、通称守道といつた。米穀薪炭の販売を業とする。書を大竹蔣塘、画を佐竹永海に学び、書画を得意とした。画家松本楓湖とは、佐竹と同門のため親しく、巖谷一六とも親交があった。

規矩は、明治初頭、村田村泉福寺で天羽南翁に漢籍を、国学歌道を帆足正久（落合直亮の弟子）に、書を西川春洞に、剣を榎原鍵吉（幕府講武所指南役、直心影流）に、画を石井鼎湖に学ぶ。

国漢、書、和歌、俳諧、剣道、植木、盆栽、小鳥などに通じる。真葛会を主催し、地域に根差した俳句活動を行う。

明治十五年（一八八二）四月～同三十八年（一九〇五）三月、村會議員を務めた。千葉禎太郎の選舉參謀として選舉活動に没頭。教育文化面にも参画し、明治二十一年（一八八八）、八幡尋常高等小学校設立時、新平民の入学を拒否する向きが強かったなか、教育の機会平等を唱えて、反対者の説得に努め、何らの差別をつけることなく就学させることを得た。一時、県議員、戸長になつたこともあった。

明治二十七年（一八九四）十二月二十七日、八幡郵便局長に任せられ、國政への関与をやめる⁽²⁾。薬種堂を営みつつ、郵便局長も務めた。

明治三十一年（一八九八）四月五日、飯香岡八幡宮社務所を校舎にして、千葉県皇典講究所分所普通学部を創立し、同分所理事に就任。明治三十三年（一九〇〇）三月、同校を飯香岡普通学館と改称。明治三十四年（一九〇一）四月、飯香岡普通学校と改称。明治四十一年（一九〇八）、同校を南総学校に改称。昭和二年（一



九二七) 三月十日、同校を南総中等学校に改称。

学校の目的・・・「中等教育の発展を期し、實學の普及を計るに在り、今の中學を見るに中流以上の資産家の學校たるの嫌あり、かくては一般に亘りて中等教育の普及發達を期し難し乃ち中等程度の私立學校を設立し教ゆるに實學を以てし大に其理想を行はんことを期しつゝあり」(上掲『房總人名辭書』)

その後の学校・・・南総学校の学生数は、大正十二年(一九二三)にピークに達し、二百五十九人に達した。その後、大正十四年(一九二五)、牛久町に市原学館(後の千葉県立市原高等学校の前身)、十五年に千葉市に私立関東中学校が開設されたため、生徒数は減少。昭和十九年三月三十一日、廃校。

教育者としての規矩

- 規矩は各学級で週一回、主に倫理を教えた。時に漢文、書道、剣道も教えた。
- 学殖が広くて深く、難しいことも噛んで含めるように教えた。時にはユーモアを交えたりして、教室からは明るい笑い声があふれた。

学校経営・・・規矩は多くの私財を注いで、維持した。昭和七年(一九一八)、子の滉の代になり、ようやく学校の借金を返済した。

昭和九年(一九三四)一月二十八日没。

人柄・・・「性篤實仁侠にして同情の志に厚くよく貧者弱者を憐れむ又た名利を見ること土芥の如く曾て人と争わず」(上掲『房總人名辭書』)

著書に『筆の端』四巻、『国語解』『宝樹集』『木の葉集』『論語抄纂註』十五巻、『隨讀隨抄』七巻、『薬鉄余陰』十五巻などがある。

作品

一天不見雲 竹杪無風動
起坐眺江山 盈眸絕埠壘

春入山村景物妍 閉人燭坐聳吟肩
盆池昨夜鳴蛙聒 果識今朝霖霖天

4. 加藤梅泉(久太郎)

先行調査

- 「加藤久太郎」『房總人名辭書』千葉毎日新聞社、明治四十二年、一八八頁
- 久保勇編「千葉氏」と市民に関する研究—近現代の「千葉氏」の受容をめぐって—平成29年度 千葉市・大学等共同研究事業報告書、千葉市・千葉大学、二〇一八、八~九、一七~一

九頁

人物の概略(主に『房總人名辭書』による)

万延元年三月、加藤庄兵衛の子として八幡村に生まれる。号は梅泉。明治十四年(一八八一)中村正直の同人舎に入り、漢籍を学ぶ。以来、東京に住み、実業に身を委ねた。その後、高橋基一の知遇を得て、江湖新聞社に入り、次いで民権新聞社に入り、星亨、中江兆民に寵用される。明治二十七年(一八九四)秋、東海新聞社を譲り受け、同社社長となる。同三十八年(一九〇五)同社を石田清に譲り、三十九年(一九〇六)七月、第六代千葉町長に就任。大正九年(一九二〇)六月、湯島天神住所で死亡(3)。



著書・・・『民権操志』『在職四年間』『千葉市制論』『印旛沼開拓新論』。詩歌俳句に深い趣味を持ち、書画を愛好して、所蔵品は数百幅を超えたという。

作品

『百花欄』十四集、明治三十七年二月、国会図書館デジタルライブラリー

元旦

今朝偏覺艸堂新 美餅味濃僮僕親
獻壽慈萱酌椒酒 喜迎明治甲辰春

林天然編『房總名所文学』明治四十四年、多田屋、二二五頁、国会図書館デジタルライブラリー

明治四十三年、上総国埴生郡立木村の高橋喜惣治信実により、高橋邸東方の山腹に隧道が掘られ、武陵洞と名付けられた。
一路仙源景物滋 桃花開落日遲々
春風吹渡武陵洞 墜道通天是鶴枝

5. 二木幹(4)

滞在期間・・・慶応三年(一八六七)頃~明治六年(一八七三)菊間藩明親館教官、明治七年(一八七四)~明治十年(一八七七)八幡小学校教員・私塾教員、明治十五年(一八八二)~明治三十一年(一八九八)私塾教員

資料

- 市原市立八幡小学校所蔵「八幡小学校沿革史 第老号 市原郡八幡小学校」(明治十一年七月。『石造物にみる「八幡郷土史」市原市八幡の石造物研究』八幡史学館100選チーム 八幡の石造物研究会、二〇一三)
- 『隨聞隨筆 総房人物論誌』第参編、明治二十



六年十月、博文館

- ・『水野藩士転籍者名簿一菊間藩寄留者明細短冊集一』(以下『水野藩士』) 沼津市立駿河図書館、一九八四
- ・「直堂二木先生之碑」(昭和八年建立。村田祐治撰。市原市門前宝積寺に現存)

先行調査研究

- ・『沼津藩の人材』企画展解説書、沼津市明治史料館、一九八九

人物の概要

天保十五年年(一八四四)五月二十九日⁽⁵⁾、駿河国沼津生⁽⁶⁾。号は直堂。初名は徳次郎、後、健次、更に幹⁽⁷⁾。健蔵ともいった⁽⁸⁾。

二木家の祖は、信州松本城主小笠原氏に仕え、のち沼津藩主水野氏に仕えた⁽⁹⁾。明治元年当時、家禄は現米二十石、居住地は第五大区三小区上総国市原郡山木村八十壹番屋敷⁽¹⁰⁾。

幹は、幼少から学問を好み(「直堂二木先生碑」)、嘉永三年(一八五〇)から安政五(一八五八)年、沼津藩邸学校において漢学修行。この際、同藩高柳邦から学んだ(「直堂二木先生碑」)。万延元(一八六〇)年二月から文久二年(一八六二)十二月、幕府儒員若山莊吉の下で経学を学び、同講学中、万延二年三月より七月まで、昌平塾の安井息軒の下で左伝を学び、文久三年(一八六三)二月から十二月まで、松平市正臣東條方庵の下で経学老莊を学び、元治慶応の際(一八六四~六八)は、幕臣井潛藏に従い漢学を学んだ⁽¹¹⁾。

慶応三年(一八六六)二月、御中小性、句読師兼留者方に就いた⁽¹²⁾。明治二年(一八六九)十二月十八日、文武館寮長を命じられた⁽¹³⁾。この際、世子忠敬の侍讀となつた⁽¹⁴⁾。役料八十石を賜る⁽¹⁵⁾。明治三年(一八七〇)十二月八日、舎長拝命⁽¹⁶⁾。明治四年(一八七一)七月十四日、菊間県貫属となつた。その後、木更津県貫属を経て、明治六年(一八七三)六月十五日、千葉県貫属となつた⁽¹⁷⁾。明治六年(一八七三)十月、望陀郡牛込小学校訓導となつた。明治七年(一八七四)八月、八幡第一等小学校訓導拝命⁽¹⁸⁾。明治八年(一八七五)四月、八幡小学校、村民の負担金につき、苦情が殺到し、閉校。⁽¹⁹⁾同年五月、依頼小学訓導罷免。

明治九年(一八七六)三月、私立漢学開業願の通り、本県において聞き届けられ、市原郡山木村居宅において開業。明治十年(一八七七)六月、望陀郡牛込村寄留中更に開業聞き届けられる。

明治十五年(一八八二)十月、市原郡山木村居宅において輔車学舎設置し、皇漢学科を設けた。明治二十一年(一八八八)九月、英漢学私立輔



車学舎設置。明治二十六年(一八九三)五月十三日、英学科を廃止し、漢文学科私立輔車学舎開業⁽²⁰⁾。

明治三十一年(一八九八)四月一日没(「直堂二木先生碑」)。

人柄・・・「直堂二木先生碑」では、「先生、性は温厚謹慤にして、博覽強記、略ぼ諸子百家に通ず。而して酒を嗜む。興至らば、談論風發し、能く人を容る。頑懦の風無く、緒餘、繪畫を爲す。」私塾の受業者は五〇〇人。

遺稿に『論語解』『成語彙』など。妻は徳、今井氏。徳の連れ子銳に中村要を配し、跡目を継がせた⁽²¹⁾。

弟子・・・高石国次郎、中島庄五郎、山越伝吉、布施重次郎、小出庄次郎、坂巻和三郎、森利平、矢野恭三、東條良平、時田甚太郎、野城清一郎、白井禎次郎、村田祐治、齊藤吉郎

6. 真板頑石

滞在期間・・・明治初年~大正七年(一九一八)

資料

・市原市立八幡小学校所蔵「八幡小学校沿革史第壹号 市原郡八幡小学校」(明治十一年七月)『石造物にみる「八幡郷土史」市原市八幡の石造物研究』八幡史学館100選チーム 八幡の石造物研究会、二〇一三)

など

・『頑石遺稿』完、中村操発行、大正十四年

先行調査研究、聞き書き

- ・大室晃『市津の民話』市津村文化財めぐり第二集、千葉県市原郡市津村教育委員会、一九六一
- ・『市原市史』別巻、一九七九、五一八~五一九頁
- ・飛鋪誠一「真板頑石先生風聞録」『上総市原』第九号、一九九五
- ・佐野彪『市原を駆け抜けた 戊辰戦争~戦いの跡をたずねて~』私家版、二〇一八、二五~二六頁

人物の概要

名は千之、字は篤敬、通称は左一郎、号は頑石。姫路藩士で奥村氏を称した⁽²²⁾。

①父は姫路藩の郡奉行であった⁽²³⁾とか、②同藩儒者であつた⁽²⁴⁾といわれる。その兄は①官軍に身を投じ、陸軍次官にまで榮進した⁽²⁵⁾とか、②神奈川県令であったといわれる⁽²⁶⁾。



頑石は、若年の頃、上京して昌平塾に学んだ(27)。維新の際は、①上野の彰義隊に走り、あと少し戦争が長引けば、第一線に出る筈であったが、その機を得ないうちに、明治元年(一八六八)五月十五日、幕軍が敗走したため、市川に逃れた。しかし、捕えられ、千葉市貝塚の監獄に幽閉される身となつたが、いよいよ斬首されるというとき、官軍の学友の知る所となつて助けられた(28)とか、

あるいは、②慶應四年(一八六八)閏四月、養老川の戦いに義軍の一人として参加した(29)といわれる。

しかし、③近年、青柳至彦によれば、養老川の戦いに参加してから、潤井戸方面に逃げる(後述)のは、極めて困難である。むしろ、上野の彰義隊の戦いのうち、江戸から船で房総までやつて来て、明治元年七月十六日(30)、市原郡飯給村の合戦(31)に参加し、その後、山道を伝って、潤井戸方面にまで逃げ込んだ者がいるという話があり、これこそが頑石なのではないかと推論している(32)。

その後の頑石について、上掲飛鋪誠一によれば、頑石が足を負傷して、ある農家で休養していた際、その知らせを受けた潤井戸村村主(当時、近隣三十六箇村総代名主を務めていた)飛鋪誠一郎(屋号鱗屋)が、一見して頑石を優れた人物であると見抜き、その夜のうちに身柄を自宅へ連れ帰り、土蔵の屋根裏の一室に数か月、匿つた。そうこうしているうちに、脱走狩りも無くなり、頑石の傷も治なり、離れの一室に移すこととした。しかし、義軍に参加した者に罰があることを恐れた誠一郎は、真板左一郎という一戸が廃家になっていたのに乘じ、頑石(当時は奥村七郎といった)を「真板左一郎」として人別帳に入れた。このため、これ以後、頑石は真板左一郎と名乗つたのだという(33)。

頑石は、当初、政府への任官を望んだが、それは叶わなかつた(34)。後、市原郡潤井戸村で家塾を開き、明治七年(一八七四)、推されて小学校長となり、数校を歴任した(35)。明治十一年(一八七八)七月には、八幡小学校で中学二等准訓導を務めていた(36)。明治十二年(一八七九)八月には、千葉教育会が創立されたが、頑石も創立会員となつた(37)。明治十四年(一八八一)には、潤井戸村横峯学校校長を務めていた(38)。この頃、師範学校教師に招聘されたが、それは断つたという(39)。明治二十二年(一八九〇)十一月から大正二年(一九一三)十二月まで、三成尋常小学校(明治二十五年(一八九二)以降は、三成尋常高等小学校)校長となる。同校校長に就任した時は、旧渥津村、市東村の人々は勿論、土氣、誉田からも通学する者が少なくなつた(40)。明治三十六年(一九〇三)、小学校教員普通免許状を授与された。(41)頑石は小学校に勤務するかたわら、要望を受けて私塾も行つていた。彼はここで経史を講じ、多くの人材を輩出した。大正七年(一九一八)十一月二十九日、病没(42)。関与した著作として、速水太方編『西征記略』(序と校正は真板左一郎、勝海舟・三島中洲題詩。明治十四年十一月付け)がある。



人柄・・・頑石は温厚篤実な性格の上、和漢の学に造詣が深く、人望が篤かった。その講義は論旨整然としており、蘊蓄を傾けての講義は生徒に深い感銘を与えたが、反面武士的な一面もあって、自説は一步も引かぬという気概があった。

地域への文化的影響

- ・小学校教員
- ・明治三十年五月発行『詩歌俳句・東海名家選』真板千之、渡辺存軒(操)閲、吉橋周朔発行
東国吉 森大陵、天羽淳夫、西郡早平、
板倉 古山文献
高倉 門倉徹、鶴田幸之助
中野 吉橋泰眠
永吉 今井誠之
潤井戸 中村操
瀧口 川嶋琢磨
菊間 天羽常貞
- ・弘道会市原郡支会長に就任・・・明治二十五年(一八九二)二月二十三日、弘道会の千葉県上総国市原郡支会設立され、支会長となる(44)。

作品(『頑石遺稿』七十、七十二頁)

雪中松		
難認後凋色	渾身白皎然、銀鱗幹縁落	鶴氅葉翻聯
玉骨梅更地	瓊姿龍躍天 不要大夫爵	超脫欲成仙
奉哭明治天皇		
在朝在野哭聲揚	老少奔馳慟欲僵	
龍去鼎湖雲有淚	景沈鳳闕日無光	
六千萬衆慕慈母	五大洲中悼聖皇	
但喜儲君紹鴻緒	允文允武御乾綱	

7. 藤崎江南(由之助)

滞在期間・・・明治三十一年(一八九八)～明治四十年(一九〇七)

資料・・・「藤崎由之助」『房總人名辞書』千葉毎日新聞社、明治四十二年、三八四～三八五頁

人物概要

明治七年(一八七四)、印旛郡安食町矢口に生まれる。江南、考槃書屋主人などと号した。同町北総斯文学会に入り、石原吾道に漢学を学ぶ。明治三十年(一八九七)東海新聞社記者となる。翌年、千葉県皇典講究分所附屬飯香岡普通学校に招聘されて、その講師となる。修身、漢文、歴史、地理、数学を担当。明治三十八年(一九〇五)三月、文部省教員検定試験に合格して、師範・中学・高等女学校の教員免許状を授与される。明治四十年

(一九〇七) 県立佐倉中学校教諭。翌年、福島県立安積中学校教諭。少時より漢文に長じ、詩を最も好む。
昭和十一年、「従六位勲七等川上南洞先生銅像記」を撰す。

作品

明治三十六年十一月二十二日『千葉毎日新聞』

考槃書屋雜興。折一

聊且考槃何處好
緒餘小枝琴墓畫
松欲後凋有高節
自憐疎嬾及第履

飯香岡畔舊茆堂
架上疎書和漢洋
菊猶飽露吐殘香
不試登臨半歲強

明治三十七年一月一日『千葉毎日新聞』

甲辰元旦

村鶴唱罷紙窓紅
三徑松篁仍臘雪
空看冠帶滿廊廟
且賀王正追里菴

起坐先知斗柄東
六街楊柳已春風
誰建籌謀攘狄戎
一杯椒酒萬懷空

8. 鈴木柳香（勝二）

人物概要

明治二九年（一八九六）、市原郡明治村に滞在

明治三十年（一九〇三）代、上総八幡に滞在

明治四十年（一九〇七）、北条区裁判所吉尾出張所書記

明治四十三年（一九一〇）、佐倉区裁判所竹袋出張所書記

大正七年（一九一八）、千葉区裁判所検事局裁判所佐倉出張所書記

大正十年（一九二一）、佐倉区裁判所書記

大正十三年（一九二四）、千葉地方裁判所

千葉区裁判所書記（翌年も）

作品（明治三十八年十一月二十六日『千葉毎日新聞』）

飯香陵
靈區百世絶纖塵
袖浦烟波青縹渺

刺有祠頭景象新
富峰晴雪白嶙峋

八幡宮
鎮坐千年德澤輝
蒼松夜靜奏仙樂

朱欄高架海雲磯
紅葉秋深掩錦機



9. 千葉昌胤（旧名山下龟吉）

先行調査

・「千葉昌胤」『房総人名辞書』千葉毎日新聞社、明治四十二年、
一一四頁
など

概要

慶応二年二月、千葉県旧市原郡八幡村の飯香岡八幡宮社家で祝子職を務めた山下家の三男として生まれ、初名を亀吉といった。号は鹿峰。明治十四年、二松学舎（三島中洲創業）に入學。明治二十年あたりに、旧同郡今富村の千葉禎太郎（後、衆議院議員を歴任、千葉県農工銀行頭取など）の養子となり、千葉昌胤と名乗った。

昌胤は学生の時から、文才に秀で、「よほど文章に巧みで少年名文家を以て聞え斬然儕輩に擢でゝ居た」と評されたり、二松学舎中の三傑と歌われたりして、その才能は、すでに確定的評価を得ていた。昌胤（山下亀吉）の文学の特色は、①まず、典雅で美しい、と云ふにあつた。しかし、②それは決して軟弱なものではなく、むしろ、力強く、雄健なものであつた。次に、③平明な読みやすいタイプではなく、むしろ、じっくり読み込んで、詩意を解き明かせる性質を有するタ

